利目名
 現代文B
 授業時数
 週 3 単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 キャリア・公務員

目標 「近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	複雑な文章の正確な読み 取りと理解および語彙の 正確な意味の理解,活用が できる。	必要な情報を用い、課題 や目的に応じた適切な表 現による文章を書き,自分 の考えを深め,発展させて いる。	自分の意見,他者の意見を 論理的にまとめ,表現する 力を高めるとともに,その 向上を図ろうとする。
価	A	わかる	近代以降の様々な文章を 通して,論理展開の形式や 語彙,文学の表現技法等を 正確に理解する。	論理展開や描写,表現技法 を把握しつつ,文章の主題 を的確捉えて表現でき る。	自らの意見をまとめ,進んで表現したり 理解したりするとともに,伝え合おうとする。
基	В	できる	文章を的確に読み取り, 目的に応じて幅広く読む ことで,自分の考えを深 め,発展させている。	自分の考えを適切に整理 し,論理的かつ効果的に表 現できる。	自分の考えをまとめつつ, 周りの友人と共同して課 題解決に努める。
準	С		文章展開および言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め,知識を身に付ける。	基礎的な語彙力や文法力に基づき,筋道を立て考えつつ,それを表現する。	授業に必要な教材の準備 や、身だしなみ等を整え る。
評	評価方法		授業時の観察・定期考 査・小テスト・校内漢字 テスト	授業時の観察・定期考 査・小テスト・レポート 等	授業に臨む姿勢や意欲, グ ループ活動等での活動成 果

いつ,何を学ぶか(学習内容)

		学	習	内	容
1 学 期	[小説(1))]小説の基	現の読み取 基本的な読。 D基本的な	み方	
2 学 期	[小説(2) [短歌・俳]小説の多権 	論拠,要旨を 様な在り方を の特色をと て,作者の心	:理解する らえ,作品を	深く味わう
3 学 期	[評論(4))]対比に』)]長編小詞	朝に沿って〕 にる論の展 脱の展開を ⁻	開を理解す	-

何で学ぶか(教材)

明治書院『新 高等学校 現代文B』 明治書院『新 高等学校 現代文B 学習課題ノート』

桐原書店『常用漢字 ワイドアル ファ』

浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

グループ学習・ペア学習

 科目名
 コミュニケーション英語II
 授業時数
 週 3 単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 キャリア・公務員

| 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度	
評	S	え	未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	まとまりのある文章を思 考・表現することができ る。	多様な場面における言語 活動に取り組むことがで きる。	
価	A	わかる	相手が表現する内容を正 しく捉えることができ, 内容を理解することがで きる。	目的に応じた聞き方・読み方をすることができる。	できないことに挑戦し, 他と恊働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。	
基	В	き	英語を聞いたり読んだり して,情報や考えなどを 的確に理解できる。	適切な用語・要点を捉えることができる。	できないところを人に聞いたり,他の者が困っているときに一緒に考察することができる。	
準	C		基本文や基本問題を読ん だり、解くことができ る。	新出単語や表現について 理解し,適切に用いるこ とができる。	授業に臨むための準備が できている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)	
評	評価方法		授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出 物・プレゼンテーション	授業・提出物・インタ ビューテスト	

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習	内	容
1 学 期	that節			
2 学 期	疑問詞+to+不 分詞構文	定詞		
3 学 期	関係代名詞wh 過去完了形	nat		

何で学ぶか(教材)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習 タブレット教材

科目夕	世界史A	授業時数	週 2 単位	2 学年
件日名		コース	研志 コース	キャリア・公務員

世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	世界の歴史について,地 理的条件や日本の歴史と 関連付けながら理解し, その知識を身につけてい る。	世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史 と関連付けて考察し,その 過程や結果を適切に表現す ることができる。	世界の歴史に対する興味・関心を高め, 意欲的に課題に取り組み追及している。
価	А	わかる	世界の歴史について,地 理的条件や日本の歴史と 関連付けながら理解して いる。	自ら問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取り整理してまとめることができる。	わからないことを調べ, 他と協働しながら課題を 解決することができる。
基	В	できる	世界の歴史についての基 本的なを流れを理解し, その知識を身につけてい る。	問題意識を持ち,問題解 決の見通しを立て,必要 な情報を収集し情報を読 み取ることができる。	わからないところを自ら 人に聞いたり,他の者が 困っているときに一緒に 考察することができる。
準	С	する	世界の歴史についての基 本的な事柄を理解してい る。	時代の変化を学ぶこと で,今を生きる自分が過 去の歴史とつながってい ることを知る。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評	評価方法		授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	前近代の諸文明 アジア・アフリカ・ヨーロッパ・南北アメリカの文明 一体化に向かう世界 繁栄するアジア・大航海時代
2 学 期	欧米の工業化とアジア諸国の動揺 ョーロッパとアメリカの諸革命・アジア諸国の動揺・東アジアの大変動 現代社会の芽生えと世界大戦 第一次世界大戦・民族自決・第二次世界大戦
3 学 期	冷戦から地球社会へ 冷戦・冷戦の終結・地球社会への歩み

何で学ぶか(教材)

帝国書院『明解 世界史A』 帝国書院『明解 世界史Aノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習・グループ学習

 科目名
 商品開発
 授業時数
 週 2 単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 キャリア・公務員

商品開発に関する知識と技術を習得させ、顧客満足を実現することの重要性について理 解させるとともに、商品を企画・開発し、流通活動を行う能力と態度を育てる。 標

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評值	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度	
評	S	使 させるために必要な技術, 基本的な知識と技術をもと		商品開発に関する基礎的・ 基本的な知識と技術をもと に, ビジネスの諸活動に携 わる者として適切に判断で きる。	商品活動に関する諸活動を 主体的に考える,実践的な 態度を身に付けているか。	
価	A		顧客満足を実現することの 重要性について理解してい るか。	商品開発に関する諸活動へ の適切な対応を目指して, 思考を深めているか。	消費者の視点に立った商品 の企画・開発・流通に主体 的に取り組もうとしている か。	
基	В		商品開発に関する基礎的な 知識を理解できる。	語句の意味を理解し、用語 や記号を適切に用いること ができる。	商品開発について関心を 持って取り組むことができ る。	
準	С		商品開発に関する重要語句 が理解できる。	語句の意味を理解し、用語 や記号を適切に用いること ができる。	授業を受けるための準備が できている(教材の準備・ 服装・身の回りの整理整頓 など)。	
評	評価方法		授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習・グループ活動	

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1	商品の多様化
学	商品開発の意義と手順
期	環境分析
2	商品開発の意思決定と開発テーマの決定
学	市場調査
期	商品コンセプトの立案と商品企画書の作成
3 学 期	商品の仕様と詳細設計 試作品の作成と評価 開発商品のテスト 事業計画の立案

何で学ぶか(教材)

教科書

商品開発 実教出版

問題集

商品開発 実教出版

どのように学ぶか(授業方法など)

教科書を中心とする講義形式 グループ活動
 科目名
 数学 I
 授業時数
 週 2 単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 キャリア・公務員

目 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育 成することを目指す。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	応用問題において問題の 意図を適切に理解し、公 式を応用して解くことが 出来る。	事象を多面的に深く理解 し、他者に的確に説明す ることが出来る。	数学を活用し、別解を作成したり、様々な分野の考え方を取り入れて回答を作成することが出来る。
価	A		標準問題において適切な 公式を選択し、解くこと が出来る。	1つ1つの考え方の根本を理解し、思考のイメージを持ちながら問題を解くことが出来る。	自ら問題を解き、わから ないときは他者に聞いた り調べたりして回答を作 成することが出来る。
基	В	き	基本的な公式を、教科 書・参考書を用いながら 解くことが出来る。	適切な用語・記号を使い、論理的な回答を作成することが出来る。	問題の類題の解答や、解 説などを参考に、問題を 解くことが出来る。
準	С		解答、解説を参考にしな がら、類題を解くことが 出来る。	問題文の意味を理解し、 解答解説を参考にしなが ら回答を作成することが 出来る。	与えられた課題に取り組 み、期限内に提出物を提 出することが出来る。
評	評価方法		授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習	内	容	
1 学 期	数と式 1次不等式 集合と命題				
2 学 期	三角比 正弦定理、余 場合の数と確				
3 学 期	整数の性質				

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 最新数学 I』 数研出版『改訂版 最新数学A』 数研出版『改訂版 3ROUND数学 I +A』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習・グループ学習

科目名	休苔	授業時数	週	2	単位	2	学年
件日名	14 月	コース・学年	研志		コース	キャリ	ア探究・公務員

日 各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	実践の中で技術や戦術,正 しい知識を用いて,楽しく 安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で 状況を適切に判断し,プレー をしたり指示を出すことが できる。	問題解決の過程を振り返り, 考察し,自ら評価・改善しよ うとすることができる。
価	А		戦術や技術を適切な場面で 生かし,集団・チームの仲間 と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し,より大きな力を発揮するために,集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに,自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い,共に考察することができる。
基	В	き	基礎練習を正しくおこない,競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技 術を理解し,またその競技の ルール等を熟知している。	できないことに挑戦し,他と 協働しながら問題解決へ向 かおうとすることができ る。
準	С	a	基本的な身体機能を理解し, 基礎体力を身に付けてい る。	健康健全な身体を求め,機能解剖やトレーニング方法,また食育,栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備が できている。(教材準備・服 装・身のまわりの整理整頓 など)
評価方法		法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ, 何を学ぶか(学習内容)

	学	羽首	内	容	
1 学 期	体つくり週 体力テスト 陸上競技				
2 学 期	バレーボー ソフトボー サッカー バスケット	-ル			
3 学 期	バドミント ダンス	、ン			

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習 (ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析

 科目名
 保健
 授業時数
 週 1 単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 ***リア探究・公務員

世涯の各段階において健康についての課題があること及び我が国の健康・医療制度や機関を適切に活用すること、社会生活における健康の保持増進には環境や食品、労働などが深くかかわっていることを理解する。また、自らの行動を振り返り、自身の現状を適切に把握する力を身に付ける。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	社会生活における健康の保 持増進に関わる事情から課 題を発見し、自らの健康を 管理することおよび環境を 改善することができる。	日常生活での健康に関する 知識の活用方法を適切に判 断することができる。	健康を保持増進するために は何が必要か考え,実行す ることができる。
価	A	わかる	各段階における健康の課題 や我が国の健康・医療制度 や機関の適切な活用の仕方 がわかる。	自身の現状を適切に把握 し、用途に応じて、適切な 施設や制度の選択ができ る。	様々な健康問題について関 心を持ち,自他の健康につ いて考えることができる。
基	В	できる	健康の保持増進には、個人 的要素だけでなく、社会的 要素が深くかかわっている ことを理解できる。	適切な用語・記号を使い, 分かりやすく解説を書くこ とができる。	わからないところを自ら人 に聞いたり,他者が困って いるときに一緒に考察する ことができる。
準	С		保健に関する重要語句が理 解できる。	語句の意味を理解し, 用語 や記号を適切に用いること ができる。	授業を受けるための準備が できている(教材の準備・ 服装・身の回りの整理整頓 など)。
評価方法		法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学習內容
1 学 期	思春期と健康,性への関心・欲求と性行動 妊娠・出産と健康,避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康
2 学 期	中高年期と健康, 医薬品とその活用 医療サービスとその活用 保健サービスとその活用 さまざまな保健活動や対策
3 学 期	大気汚染と健康,水質汚濁・土壌汚染と健康 環境汚染を防ぐ取り組み ごみの処理と上下水道の整備,食品の安全を守る活動 働くことと健康,働く人の健康づくり

何で学ぶか(教材)

大修館書店

『最新高等 保健体育[改訂版]』 大修館書店

『最新高等 保健体育ノート[改訂版]』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習

科目名 	 /=_	授業時数	週 1 単位	2 学年
科目名	日米1	コース	研志 コース	キャリア・公務員

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	楽譜に階名を書かなくても 歌唱・リコーダーの演奏が できる。	自己のイメージを表現する ための技能を身につけるこ とができる。	グループ・アンサンブル学習を通して音楽表現を工夫することができる。
価	A	わかる	・音楽の様々な表現方法を 知ることができる。 ・音楽の歴史的背景に関心 を持ち鑑賞することができ る。	・アーティケレージョンを 意識した表現ができる。・時代による音楽のスタイルの違いを感じ取ることができる。	グループ・アンサンブル学 習に積極的に取り組むこと ができる。
基	В	できる	・腹式呼吸や正確なリコー ダーの運指で、合唱・リ コーダーアンサンブルがで きる。 ・音楽の歴史に関心を持つ ことができる。	・#やりのあるメロデイを 流れるようにスムーズに演 奏することができる。 ・時代による音楽の変化を 感じ取りながら鑑賞するこ とができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理 論の学習に積極的に取り組 むことができる。
準	С		・合唱とリコーダーアンサンブルに意欲的に取り組むことができる。 ・音楽の歴史と鑑賞を学ぶことの意義を理解できる。	音楽に関心を持ち, 合唱や リコーダーアンサンブルに 喜びを感じることができ る。	授業を受けるための準備が できている。(教材の準備・ 服装・身の回りの整理整頓 など)
評価方法		法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学習內容
1	ルネサンス・バロック時代の音楽
学	アルトリコーダー「グリーンスリーブス」
期	歌唱「見上げてごらん夜の星を」
2 学 期	古典派・ロマン派の音楽 歌唱・リコーダー「花」
3	近代の音楽
学	歌唱「Memory」
期	アルトリコーダー「モルダウ」

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSAI」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア練習・グループ練習

科目名 ビ

ビジネスマナー

授業時数

週 2 単位

コース・学年

研志 コース

2 学年

目 ビジネスに関するマナーとコミュニケーションの知識・技術を習得し、ビジネスの諸活 動における円滑な人間関係を築く能力と態度を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	日常生活の場面で応用す ることができる。	日常生活でのマナーに関する知識の活用方法を適切に 判断し、コミュニケーション力を身につけることがで きる。	ビジネスマナーを理解し、 効果的にコミュニケーショ ンを行うことができる。
価	A		挨拶や好感を与える立ち 居振る舞い、身だしなみ の重要性を理解する。	マナーやコミュニケーションについての思考を深め, 自身の現状を適切に把握することができる。	ビジネスマナーやコミュニ ケーションについて主体的 に考え、発表し合うことが できる。
基	В	できる	ビジネスマナーに関する基 礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し、用語 や記号を適切に用いること ができる。	ビジネスマナーとコミュ ニケーションの諸活動に 広い関心がある。
準	С		ビジネスマナーに関する重 要語句が理解できる。	語句の意味を理解し, 用語 や記号を適切に用いること ができる。	授業を受けるための準備が できている(教材の準備・ 服装・身の回りの整理整頓 など)。
評	評価方法		授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習	内	容
1 学 期	ビジネス社会の 働くことの意義 社会での人間関	袋		
2 学 期	仕事をするため 第一印象、身た 仕事のすすめた 敬語、クッショ	ごしなみ 名		電話応対
3 学 期	ビジネスマナー 訪問、来客のマ 社会人としての	ァナー	V	

何で学ぶか(教材)

教科書

ビジネスマナー 早稲田教育出版

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

グループ活動

実習

授業時数

週 2 単位

コース・学年

コース 2 学年

現代社会の出来事を多角的・公正に理解・判断し、その課題をみんなで解決していく礎目となる総合的な力(知識、思考力、判断力)を養う。ニュース時事能力検定取得を目指標す。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	日々の重要ニュースについて、その背景に含まれている問題点、社会的な意味、 今後の見通しなどを考えることができる。	学習したことを基に、現代 の政治的・経済的分野にお ける事象を分析することが できるか。	日々の重要なニュースを テーマに効果的にコミュニ ケーションを行うことがで きる。
価	А	カュ	社会事象についてメディア などから必要な情報を読み 取ることができる。	身の回りの出来事や社会事 象から課題を見いだすこと ができる。	ニュースをテーマに主体的 に考え、発表し合うことが できる。
基	В	4	社会事象に関する基礎的な 知識を理解できる。	語句の意味を理解し, 用語 や記号を適切に用いること ができる。	社会事象について興味を持 ち、自身の生活との関りを 意識する。
準	С		現代社会に関する重要語句 が理解できる。	語句の意味を理解し, 用語 や記号を適切に用いること ができる。	授業を受けるための準備が できている(教材の準備・ 服装・身の回りの整理整頓 など)。
評	評価方法		授業・定期考査 提出物	授業・定期考査 提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習	内	容
1 学 期	政治分野 経済分野 暮らしに関す	る分野		
2 学 期	社会環境に関 国際分野 ニュース時事i 過去問演習		式 験	
3 学 期	ニュース時事[過去問演習	能力検定記	式験	

何で学ぶか(教材)

テキスト、	問題集
ニュース検	定
毎日新聞出	出版

どのように学ぶか(授業方法など)

講義			

授業時数

週 4 単位

コース・学年

研志 コース

2 学年

ビジネスに関する情報を収集、処理、分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の 目 意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活 標 用する能力と態度を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	情報を適切に収集、処理、発信する技能を習得 し活用できる。	情報を収集、処理、発信 する場合に、方法を工夫 したり、目的に応じて手 段や方法を改善できる。	情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うことができる。
価	A	わかる	情報を適切に収集、処理、発信するための基礎 的な知識を身につけている。	情報を収集、処理、発信 する場合に、方法を工夫 したり、目的に応じて手 段や方法を判断できる。	表計算ソフトウェア (Excel)の習得に積極的 に取り組んでいる。
基	В		情報社会における情報技 術の役割や影響を理解し ている。	情報モラルを理解できている。	コンピュータや情報通信 ネットワークなどに関心 を持ち取り組んでいる。
準	С		情報に関する重要語句が 理解できる。	語句の意味を理解し,用 語や記号を適切に用いる ことができる。	授業を受けるための準備 ができている(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)。
評価方法		法	授業・定期考査・検定	授業・定期考査	授業・定期考査

いつ, 何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1	情報の活用と情報モラル
学	ビジネスと情報
期	PCの基本操作
2	ビジネス情報の処理と分析
学	関数の利用
期	表、グラフの作成
3 学 期	検定対策 過去問

何で学ぶか(教材)

全商情報処理検定 模擬試験問題集

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 PC実習

総合的な探究の時間 授業時数 科目名

週 1 単位

2 学年

コース・学年 研志 コース

程式の見方、考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通し自己理解、他者 理解を深め、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度	
評	S	使える	授業や外部講師の講演から 得られた知識をもとに,自 ら関連することを調べ,活 用するとともに,探究の意 義や価値を実社会や自己と 関連付けて理解している。	異なる意見・価値観を持つ人と理解 し合うことの重要性を想像できる。 また,自ら独創的な課題や仮説を立 て,情報収集,整理・分析する方法 を工夫し,他のことに関連付けつ つ,まとめ・表現することができ る。	学習内容を自分事として捉え,常に自分自身,相手,社会など異なる3つ以上の立場に立ちながら,他者と協働して課題を解決することができる。	
価	A	カゝ	授業や外部講師の講演から 得られた知識を活用すると ともに,実社会や自己と関 連付けて,探究の意義や価 値を理解している。	異なる意見・価値観を持つ人と 理解し合うことの重要性を想像 できる。また、自ら課題や仮説 を立て、情報収集、整理・分析 する方法を工夫し、まとめ・表 現することができる。	学習内容を自分事として捉え,自分自身と相手など複数の異なる立場に立ちながら,他者と協働して課題を解決することができる。	
基	В	できる	授業や外部講師の講演から得られた知識を活用し、探究の意義や価値を おおむね理解している。	自ら課題や仮説を立て, 情報を集め,整理・分析 し,まとめ・表現するこ とができる。	学習内容を自分事として 捉え,他者と協働して課 題を解決することができ る。	
準	С		授業や外部講師の講演の 内容をおおむね理解して いる。	与えられた課題に対して、情報を集め、整理・ 分析し、まとめ・表現することができる。	他者と協働して課題を解 決しようとする姿勢があ る。	
評価方法		法	レポート・プロトタイ プ・プレゼン内容などの 成果物	レポート・プロトタイ プ・プレゼン内容などの 成果物, グループ活動	レポート・プロトタイ プ・プレゼン内容などの 成果物, グループ活動	

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	<u> P</u>	学	習	内	容
1 学 期	チームビ	ルディン	グ		
2 学 期		会問題に 労働など		解を深めよ	; j
3 学 期	社会問題	夏を解決	するための	の行動を起	こそう

何で学ぶか(教材)

Free The Children Japan 提供教材

どのように学ぶか(授業方法など)

- グループ活動
- オンライン講演会
- 講師招聘

科目名

日本史A

授業時数

コース・学年

週

研志 コース

2 単位 2 学年

近現代の歴史的事象と現在との結びつきを調べ考える活動を通して現代の社会やその諮問題が歴史的に形成されたものであるという歴史を学ぶ意義に気付く 近現状の日本史の展開念、年表や地図、その他の資料に基づいて学習し、近代社会が成立し発展する過程を理解する 近代社会が成立し発展する過程を地理的条件や世界の歴史と問連付けて客寮することを通し、歴史的思考力をは付ける 主体的な歴史学習と通して、現代の日本と世界の抱える諸課題について等象も、し国際社会において平和で民主的な国家・社会を形成するために、私たちが果たすべき役割について考える 目

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	ええ	近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を意欲的に身に付け,近代社会が成立 し発展する過程を十分に理解することが できる。	歴史的に形成された諸課題について、 様々な理解、立場があることを踏まえ、 公正に判断することができ、課題につい ての考察や判断の過程や結果を、効果的 な方法を選択して適切に表現することが できる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察することができる。また、得られた資料や情報を効果的に活用し、討議・調査等を行うことができる。
価	A	~	近現代の基本的な歴史的事象に関する知 識を身に付け,近代社会が成立し発展す る過程を理解することができる。	歴史的に形成された諸課題について, 様々な理解,立場があることを踏まえ, 公正に判断することができ、課題につい ての考察や判断の過程や結果を,適切に 表現することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、考察することができる。また、 得られた資料や情報を活用し、討議・調査を行うことができる。
基	В		近現代の基本的な歴史的事象に関する知 識を身に付け,近代社会が成立し発展す る過程を概ね理解することができる。	歴史的に形成された諸課題について、公正に判断することができ、課題についての考察や判断の過程や結果を、適切に表現することができる。	いだし、考察することができる。また、
準	С	す	近現代の基本的な歴史的事象に関する知 識を身に付け,近代社会が成立し発展す る過程をある程度理解することができ る。	歴史的に形成された諸課題についての考 察や判断の過程や結果を,表現すること ができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、考察することができる。また、 得られた資料や情報を活用し、グループ 内等で発言することができる。
評価方法		法	授業 定期考査 提出物 等	授業 定期考査 提出物 等	授業 定期考査 提出物 等

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	私たちの時代と歴史 近代日本の形成
2 学 期	東アジア世界の変動と日本 二つの世界大戦と日本
3 学 期	第二次世界大戦後の国際社会と日本 現代世界と日本

何で学ぶか(教材)

日本史A (東京書籍) 日本史Aワークノート(東京書籍)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

グループ討議

 科目名
 現代文B
 授業時数
 週3単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 保育・幼児教育系進学

| 近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S		複雑な文章の正確な読み 取りと理解および語彙の 正確な意味の理解,活用が できる。	必要な情報を用い、課題 や目的に応じた適切な表 現による文章を書き,自分 の考えを深め,発展させて いる。	自分の意見,他者の意見を 論理的にまとめ,表現する 力を高めるとともに,その 向上を図ろうとする。
価	A	か	近代以降の様々な文章を 通して,論理展開の形式や 語彙,文学の表現技法等を 正確に理解する。	論理展開や描写,表現技法 を把握しつつ,文章の主題 を的確捉えて表現でき る。	自らの意見をまとめ,進んで表現したり 理解したりするとともに,伝え合おうとする。
基	В	できる	文章を的確に読み取り, 目的に応じて幅広く読む ことで,自分の考えを深 め,発展させている。	自分の考えを適切に整理 し,論理的かつ効果的に表 現できる。	自分の考えをまとめつつ, 周りの友人と共同して課 題解決に努める。
準	С		文章展開および言葉の特 徴やきまりなどについて の理解を深め,知識を身に 付ける。	基礎的な語彙力や文法力に基づき,筋道を立て考えつつ,それを表現する。	授業に必要な教材の準備 や、身だしなみ等を整え る。
評	評価方法		授業時の観察・定期考 査・小テスト・校内漢字 テスト	授業時の観察・定期考 査・小テスト・レポート 等	授業に臨む姿勢や意欲, グ ループ活動等での活動成 果

いつ,何を学ぶか(学習内容)

		学	習	内	容
1 学 期	[小説(1	.)]小説の	長現の読み 基本的な記 の基本的な	売み方	
2 学 期	[評論(2)]論の展開,論拠,要旨を的確にとらえる。 [小説(2)]小説の多様な在り方を理解する [短歌・俳句]表現上の特色をとらえ,作品を深く味わう [詩]詩の構成に沿って,作者の心情をつかむ。				
[評論(3)]論の展開に沿って適切に読み取る。 3 学期 [評論(4)]対比による論の展開を理解する。 [小説(3)]長編小説の展開を丁寧に追って作品の題に迫る。				解する。	

何で学ぶか(教材)

明治書院『新 高等学校 現代文B』 明治書院『新 高等学校 現代文B 学習課題ノート』

桐原書店『常用漢字 ワイドアル ファ』

浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

グループ学習・ペア学習

科目名

書道 I

授業時数

週 1 単位

コース・学年

研志 コース

2 学年

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を 高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化に で、ついての理解を深める。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S	え	目的や用途に即した芸術 的な表現について構成す る事項を確認し、自ら表 現活を行うことが出来 る。	文字や書の伝統と文化に ついて幅広く理解し,そ の価値を考えることが出 来る。	書の持つ良さや文字に高 い関心を持ち、生涯にわ たって書道の文化を大切 に出来る。
価	A	わかる	古典の美とその技法を学 び、普遍性のある表現を 構想し、工夫することが 出来る。	書のもつ良さや美しさを 想像的に味わうことが出 来る。	表現活動を通し意図的, 主体的に表現の構想から 完成に至るまでの充実感 や喜びを味わうことが出 来る。
基	В	できる	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想することが出来る。	自己のねらいを達成する ために、伝統的な書の美 を感受し、書で表現する ことができる。	古典の美とその技法に関 心を持ち、積極的に表現 技法を高めることが出来 る。
準	С		自らの完成に基づいた表 現の工夫を行い,段階的 に表現力を高めることが 出来る。	書の効果的な表現を模索 し,実作に移すことが出 来る。	書の創造的活動の喜びを 味わい、主体的に表現や 鑑賞の創造的活動に取り 組もうとする。
評	評価方法		提出作品 (練習・清書作品) 理論に関する筆記試験	ワークシート	授業に臨む姿・様子 ワークシート

いつ,何を学ぶか(学習内容)

·	T			
	学	習音	内	容
1 学 期	・「漢字の書 ・行書の古典	:」行書の _で :を基にした		
2 学 期		:」隷書の _で 交じりの		S
3 学 期	・「仮名の書・仮名作品の・「漢字仮名	-	書」Ⅱ	

何で学ぶか(教材)

『書 I 』教育図書 補助プリント ワークシート 書道用具一式

どのように学ぶか(授業方法など)

【実技・鑑賞・発表】 一斉授業 グループ学習

科目名

美術 I

授業時数

週 1 単位

コース・学年

研志 コース

2 学年

目 幅広い美術活動を通して美術を愛好する心情を育むと共に、 美術の歴史と大作画家の名作に触れることで美術文化についての理解を深める。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	正確な描写、明度の表現 ができる。他者への指導 もできる。	自己のイメージを表現するための技能を身につけることができる。	全ての学習を通して表現 を工夫することができ る。
価	A	わかる	物の表現がある程度のレベルまで表現ができる。	形、材質、トーンの表現 ができる。	デッサン、彩色学習に積極的に取り組むことができる。
基	В	できる	基礎的な表現法を身につけることができる。	構図を考えて、表現する ことができる。	デッサン、クロッキー、 鑑賞・美術理論の学習に 積極的に取り組むことが できる。
準	С	する	基礎的な描写理論を理解 することができる。	美術に関心を持ち、描写や彩色に喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評価方法		法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	オリエンテーション 名画鑑賞 2 ダビンチの人生とその作品、背景と作品の模写 フェルメールの人生とその作品、背景と作品の模写
2 学 期	色彩構成 ポスター作製 砂絵の世界 1 サンドアートセットを使って
3 学 期	砂絵の世界2 オリジナル作品の制作 まとめ

何で学ぶか(教材)

高校生の美術1 (日本文教出版) 副教材 スケッチブック、水彩画 用具サンドアートセット。 それぞれの題材や活動で必要な材料は、半期ごとに購入してもらい ます。

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

・作品鑑賞、作品、作者説明 作者の生き様、時代背景までを理解しながら芸術作品を鑑賞する (YouTubeなどの映像コンテンツの使用)

科目名	H. Han 甘工林	授業時数	週 2 単位	<u>V</u>	2 学年
件日名	土物基礎	コース	研志	コース	探究

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、 \blacksquare 実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原 標理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		見点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S	え	基本的な概念・原理・法則 を十分に理解し、数値の取 り扱いも確実にできる。 実験、実習の技能が確実に 身についている。	図表やグラフ,実験・観察 データをもとに科学的に正 しく考察できる。 実験・観察の結果を適切に 表現できる。	グループ活動および実験 や実習等においてより深 く探究する姿勢を持ち, 調べたり考察したりす る。
価	A	カゝ	基本的な概念・原理・法則 を概ね理解し、数値の取り 扱いもできる。 実験、実習の技能が概ね身 についている。	図表やグラフ,実験・観察データから分かること もとに,考察することが できる。	グループ活動および実験 や実習等において自らの 役割を見出し主体的に活 動する。
基	В	(,	基本的な概念・知識が概ね 身についている。 実験・実習の基本的な操作 ができる。	図表やグラフ,実験・観察データから分かること を指摘できる。	授業中に分からないこと を積極的に質問したり, 教え合ったりできる。
準	С	する	基本的な概念・知識があ る程度身についている。	図表やグラフをある程度 読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し, 積極的に発言やグループ 活動を行う。
評	評価方法		定期考査 確認テスト ワークシート 実験, 観察, レポート等	定期考査 確認テスト ワークシート 実験, 観察, レポート等	授業態度 各種提出物 グループワーク 実験, 観察, レポート等

いつ,何を学ぶか(学習内容)

		学	習	内	容
1 学 期		生物の遺伝子	特徴とそのは	たらき	
2 学 期	第3章	体内環	境と恒常	生	
3 学 期	第4章	植生の	多様性と	生態系	

何で学ぶか(教材)

教科書 (第一学習社 改訂版 新生物基礎(319)) (第一学習社 ネオパルノート生物基礎) どのように学ぶか(授業方法など)

講義,演習 実験, 実習 グループ活動

科目名	事况 1	授業時数	週 1	単位	2 学年
	育 坦 Ⅰ	コース・学年	研志	コース	保育

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を 高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化に で、ついての理解を深める。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S		目的や用途に即した芸術 的な表現について構成す る事項を確認し,自ら表 現活を行うことが出来 る。	文字や書の伝統と文化に ついて幅広く理解し,そ の価値を考えることが出 来る。	書の持つ良さや文字に高い関心を持ち、生涯にわたって書道の文化を大切に出来る。
価	A	わかる	古典の美とその技法を学び、普遍性のある表現を 構想し、工夫することが 出来る。	書のもつ良さや美しさを 想像的に味わうことが出 来る。	表現活動を通し意図的, 主体的に表現の構想から 完成に至るまでの充実感 や喜びを味わうことが出 来る。
基	В	できる	書表現の諸要素を感受 し、感性を働かせなが ら、自らの意図に基づい て構想することが出来 る。	自己のねらいを達成する ために、伝統的な書の美 を感受し、書で表現する ことができる。	古典の美とその技法に関 心を持ち、積極的に表現 技法を高めることが出来 る。
準	С		自らの完成に基づいた表 現の工夫を行い,段階的 に表現力を高めることが 出来る。	書の効果的な表現を模索 し,実作に移すことが出 来る。	書の創造的活動の喜びを 味わい、主体的に表現や 鑑賞の創造的活動に取り 組もうとする。
評価方法		法	提出作品 (練習・清書作品) 理論に関する筆記試験	ワークシート	授業に臨む姿・様子 ワークシート

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	・「漢字仮名交じりの書」 I ・「漢字の書」楷書の古典に学ぶ I
2 学 期	・「漢字の書」楷書の古典に学ぶⅡ ・篆刻(姓名印を1稞彫ろう) ・「漢字の書」楷書の古典に学ぶⅡ ・楷書の古典を基にした漢字創作
3 学 期	・「仮名の書」 ・「漢字仮名交じりの書」Ⅱ

何で学ぶか(教材)

 『書 I 』 教育図書

 補助プリント

 ワークシート

 書道用具一式

どのように学ぶか(授業方法など)

【実技・鑑賞・発表】 一斉授業 グループ学習

科目名	- 本水 I	授業時数	週 1 単	单位	2 学年
件日名	日米 1	コース	研志	コース	保育・幼児教育

| 幅広い音楽活動を通して音楽を愛好する心情を育むと共に、音楽の歴史と大作曲家の名曲に触れることで音楽文化についての理解を深める。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		見点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	楽譜に階名を書かなくても 歌唱・リコーダーの演奏が できる。	自己のイメージを表現する ための技能を身につけるこ とができる。	グループ・アンサンブル学 習を通して音楽表現を工夫 することができる。
価	А	わかる	・音楽の様々な表現方法を 知ることができる。 ・音楽の歴史的背景に関心 を持ち鑑賞することができ る。	・アーティケレージョンを 意識した表現ができる。 ・時代による音楽のスタイ ルの違いを感じ取ることが できる。	グループ・アンサンブル学 習に積極的に取り組むこと ができる。
基	В	できる	・腹式呼吸や正確なリコー ダーの運指で、合唱・リ コーダーアンサンブルがで きる。 ・音楽の歴史に関心を持つ ことができる。	・ # や b のあるメロデイを 流れるようにスムーズに演 奏することができる。 ・時代による音楽の変化を 感じ取りながら鑑賞するこ とができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理 論の学習に積極的に取り組 むことができる。
準	С		・合唱とリコーダーアンサンブルに意欲的に取り組むことができる。 ・音楽の歴史と鑑賞を学ぶことの意義を理解できる。	音楽に関心を持ち,合唱や リコーダーアンサンブルに 喜びを感じることができ る。	授業を受けるための準備が できている。(教材の準備・ 服装・身の回りの整理整頓 など)
評価方法		法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1	ルネサンス・バロック時代の音楽
学	アルトリコーダー「グリーンスリーブス」
期	歌唱「見上げてごらん夜の星を」
2 学 期	古典派・ロマン派の音楽 歌唱・リコーダー「花」
3	近代の音楽
学	歌唱「Memory」
期	アルトリコーダー「モルダウ」

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSAI」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア練習・グループ練習

 科目名
 コミュニケーション英語II
 授業時数
 週 3 単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 保育・幼児教育系進学

| 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現		評価の観点		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	まとまりのある文章を思 考・表現することができ る。	多様な場面における言語 活動に取り組むことがで きる。	
価	A	わかる	相手が表現する内容を正 しく捉えることができ, 内容を理解することがで きる。	目的に応じた聞き方・読み方をすることができる。	できないことに挑戦し, 他と恊働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。	
基	В	き	英語を聞いたり読んだり して,情報や考えなどを 的確に理解できる。	適切な用語・要点を捉えることができる。	できないところを人に聞いたり,他の者が困っているときに一緒に考察することができる。	
準	C		基本文や基本問題を読ん だり、解くことができ る。	新出単語や表現について 理解し,適切に用いるこ とができる。	授業に臨むための準備が できている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)	
評価方法		法	授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出 物・プレゼンテーション	授業・提出物・インタ ビューテスト	

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習	内	容
1 学 期	that節			
2 学 期	疑問詞+to+不 分詞構文	定詞		
3 学 期	関係代名詞wh 過去完了形	nat		

何で学ぶか(教材)

*
新田版『Revised COMET ENGLISH Communication II』

数研出版 COMET コメット英単語

プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習 タブレット教材

子どもの発達と保育 科目名

授業時数

週 2 単位 2 学年

コース

研志

コース

保育·幼児教育系進学

乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。 子どもの健全な成長に関心を持ち、子どもに関わる意欲や能力、実践的な態度を身につける。 目

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	作品づくりや実習を通して,子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。子どもの発達段階を理解し,発達段階に応じた対応を身につけている。	作品づくりを通して,子どもが関心を抱くものを見いだし,発表を通じてそれを表現することができる。	保育に対する関心をもち、子どもの発達に関して意欲的に学習する態度を身につけ、主体的に作品づくりに参加し、子どもに関わる実践的な態度を身につけている。
価	A	わかる	作品づくりや実習を通して,子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。	作品づくりを通して,子どもが関心を抱くものを見いだし,表現方法を身につけている。	保育に対する関心をもち, 子どもの発達に関して意欲 的に学習する態度を身につ けている。
基	В	できる	作品づくりや実習を通して,子どもが関心を抱くものにい関しての基本的な知識を身につけている。	作品づくりを通して,子どもが関心を抱くものを見いだすことができる。	主体的に作品づくりに参加 し、子どもに関わる意欲を 身につけている。
準	С		作品作りや実習の基本的な 知識を身につけている。	作品づくりを通して,子どもが関心を抱くものを見いだそうとすることができる。	授業を受けるための準備が できている。(教材準備・身 のまわりの整理整頓など)
評価方法		法	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	Ë	Ź	習	内	容
1 学 期	幼稚園実	· 谐			
2 学 期	作品制作	と発表会	会準備		
3 学 期	作品制作	と発表会	会実践		

何で学ぶか(教材)

子ども文化 (教育図書) プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 実習 講演 グループ学習 作品制作

 科目名
 数学 I
 授業時数
 週 2 単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 保育・幼児教育系進学

目 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	応用問題において問題の 意図を適切に理解し、公 式を応用して解くことが 出来る。	事象を多面的に深く理解し、他者に的確に説明することが出来る。	数学を活用し、別解を作成したり、様々な分野の考え方を取り入れて回答を作成することが出来る。
価	A		標準問題において適切な 公式を選択し、解くこと が出来る。	1つ1つの考え方の根本を理解し、思考のイメージを持ちながら問題を解くことが出来る。	自ら問題を解き、わから ないときは他者に聞いた り調べたりして回答を作 成することが出来る。
基	В	き	基本的な公式を、教科 書・参考書を用いながら 解くことが出来る。	適切な用語・記号を使い、論理的な回答を作成することが出来る。	問題の類題の解答や、解 説などを参考に、問題を 解くことが出来る。
準	С		解答、解説を参考にしな がら、類題を解くことが 出来る。	問題文の意味を理解し、 解答解説を参考にしなが ら回答を作成することが 出来る。	与えられた課題に取り組 み、期限内に提出物を提 出することが出来る。
評価方法		法	授業・定期考査・小テス ト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ, 何を学ぶか(学習内容)

	学	羽自	内	容	
1 学 期	数と式 1次不等式 集合と命題				
2 学 期	三角比 正弦定理、 場合の数と				
3 学 期	整数の性質				

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 最新数学 I』 数研出版『改訂版 最新数学A』 数研出版『改訂版 3ROUND数学 I +A』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習・グループ学習

科目名	₩界中A	授業時数	週 2 単位	2 学年
	世介文A	コース	研志 コース	保育

世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	世界の歴史について,地 理的条件や日本の歴史と 関連付けながら理解し, その知識を身につけてい る。	世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史 と関連付けて考察し,その 過程や結果を適切に表現す ることができる。	世界の歴史に対する興味・関心を高め, 意欲的に課題に取り組み追及している。
価	A	わかる	世界の歴史について,地 理的条件や日本の歴史と 関連付けながら理解して いる。	自ら問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取り整理してまとめることができる。	わからないことを調べ, 他と協働しながら課題を 解決することができる。
基	В	できる	世界の歴史についての基 本的なを流れを理解し, その知識を身につけてい る。	問題意識を持ち,問題解 決の見通しを立て,必要 な情報を収集し情報を読 み取ることができる。	わからないところを自ら 人に聞いたり,他の者が 困っているときに一緒に 考察することができる。
準	С	する	世界の歴史についての基 本的な事柄を理解してい る。	時代の変化を学ぶことで,今を生きる自分が過去の歴史とつながっていることを知る。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評価方法		法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	前近代の諸文明 アジア・アフリカ・ヨーロッパ・南北アメリカの文明 一体化に向かう世界 繁栄するアジア・大航海時代
2 学 期	欧米の工業化とアジア諸国の動揺 ョーロッパとアメリカの諸革命・アジア諸国の動揺・東アジアの大変動 現代社会の芽生えと世界大戦 第一次世界大戦・民族自決・第二次世界大戦
3 学 期	冷戦から地球社会へ 冷戦・冷戦の終結・地球社会への歩み

何で学ぶか(教材)

帝国書院『明解 世界史A』 帝国書院『明解 世界史Aノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習・グループ学習

科目名	 休 <u>育</u>	授業時数	週	2	単位	2	学年
科目名	伊月	コース・学年	研志		コース	保育・:	幼児教育系進学

各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評价	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	実践の中で技術や戦術,正 しい知識を用いて,楽しく 安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で 状況を適切に判断し,プレー をしたり指示を出すことが できる。	問題解決の過程を振り返り, 考察し,自ら評価・改善しよ うとすることができる。
価	A		戦術や技術を適切な場面で 生かし,集団・チームの仲間 と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに,自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い,共に考察することができる。
基	В	き	基礎練習を正しくおこない, 競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技 術を理解し,またその競技の ルール等を熟知している。	できないことに挑戦し,他と協働しながら問題解決へ向 かおうとすることができ る。
準	С	a	基本的な身体機能を理解し, 基礎体力を身に付けてい る。	健康健全な身体を求め,機能解剖やトレーニング方法,また食育,栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備が できている。(教材準備・服 装・身のまわりの整理整頓 など)
評	評価方法		授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	羽白	内	容
1 学 期	体つくり運動 体力テスト 陸上競技			
2 学 期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボ	ー ル		
3 学 期	バドミントン ダンス			

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習(ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析

 科目名
 保健
 授業時数
 週 1 単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 保育・幼児教育系進学

世涯の各段階において健康についての課題があること及び我が国の健康・医療制度や機関を適切に活用すること、社会生活における健康の保持増進には環境や食品、労働などが深くかかわっていることを理解する。また、自らの行動を振り返り、自身の現状を適切に把握する力を身に付ける。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	社会生活における健康の保 持増進に関わる事情から課 題を発見し、自らの健康を 管理することおよび環境を 改善することができる。	日常生活での健康に関する 知識の活用方法を適切に判 断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え,実行することができる。
価	A	わかる	各段階における健康の課題 や我が国の健康・医療制度 や機関の適切な活用の仕方 がわかる。	自身の現状を適切に把握 し、用途に応じて、適切な 施設や制度の選択ができ る。	様々な健康問題について関 心を持ち,自他の健康につ いて考えることができる。
基	В	キ	健康の保持増進には、個人 的要素だけでなく、社会的 要素が深くかかわっている ことを理解できる。	適切な用語・記号を使い, 分かりやすく解説を書くこ とができる。	わからないところを自ら人 に聞いたり,他者が困って いるときに一緒に考察する ことができる。
準	С		保健に関する重要語句が理 解できる。	語句の意味を理解し, 用語 や記号を適切に用いること ができる。	授業を受けるための準備が できている(教材の準備・ 服装・身の回りの整理整頓 など)。
評	評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学習内容
1 学 期	思春期と健康,性への関心・欲求と性行動 妊娠・出産と健康,避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康
2 学 期	中高年期と健康, 医薬品とその活用 医療サービスとその活用 保健サービスとその活用 さまざまな保健活動や対策
3 学 期	大気汚染と健康,水質汚濁・土壌汚染と健康 環境汚染を防ぐ取り組み ごみの処理と上下水道の整備,食品の安全を守る活動 働くことと健康,働く人の健康づくり

何で学ぶか(教材)

大修館書店 『最新高等 保健体育[改訂版]』

大修館書店 『最新高等 保健体育ノート[改訂版]』

|『最新高等 保健体育ノート[改訂版]』 |プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習

 科目名
 音楽演習
 授業時数
 週 2 単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 保育・幼児教育系進学

日 保育・幼児教育で取り扱う教材や、それらを展開するために必要なピアノ演奏技術の基礎を身に付ける。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	大譜表の読み方を理解し,正 しい姿勢と運指で演奏する ことができる。	曲想に合わせたテンポで演 奏することができる。	目標を設定し,到達できるまで繰り返し練習することができる。
価	A	わかる	正しい姿勢と運指で両手の 演奏することができる。	メトロノームに合わせ, 正し いリズムで演奏することが できる。	練習したことを他と聴きあい, 互いに評価ができる。
基	В	できる	正しい姿勢と運指で片手ず つの演奏することができ る。	楽譜の読み方と鍵盤の位置 を理解することができる。	できないところをできるようになるまで繰り返し練習 することができる。
準	С	する	電子ピアノの使用方法を理 解できる。	ピアノ演奏練習の必要性を 理解し, 興味を持つことがで きる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評	評価方法		授業 実技テスト	授業 実技テスト	授業 実技テスト

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	<u> </u>	学	習	内	容
1 学 期	全訳バイ P10~27	゚゙エルピ゚	アノ教本		
2 学 期	全訳バイ P28~37	゚゙エルピ゚	アノ教本		
3 学 期	全訳バイ P39~41	゚゙エルピ゚	アノ教本		

何で学ぶか(教材)

全訳バイエルピアノ教本 (全音楽譜出版社)

どのように学ぶか(授業方法など)

個人・ペア練習 1ページごとにチェック コース・学年

研志 コース

2 学年

ビジネスに関する情報を収集、処理、分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の 目 意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活 標 用する能力と態度を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	情報を適切に収集、処理、発信する技能を習得 し活用できる。	情報を収集、処理、発信 する場合に、方法を工夫 したり、目的に応じて手 段や方法を改善できる。	情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うことができる。
価	A	わかる	情報を適切に収集、処理、発信するための基礎 的な知識を身につけている。	情報を収集、処理、発信 する場合に、方法を工夫 したり、目的に応じて手 段や方法を判断できる。	表計算ソフトウェア (Excel)の習得に積極的 に取り組んでいる。
基	В	き	情報社会における情報技 術の役割や影響を理解し ている。	情報モラルを理解できている。	コンピュータや情報通信 ネットワークなどに関心 を持ち取り組んでいる。
準	С		情報に関する重要語句が 理解できる。	語句の意味を理解し, 用 語や記号を適切に用いる ことができる。	授業を受けるための準備 ができている(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)。
評	評価方法		授業・定期考査・検定	授業・定期考査	授業・定期考査

いつ, 何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1	情報の活用と情報モラル
学	ビジネスと情報
期	PCの基本操作
2	ビジネス情報の処理と分析
学	関数の利用
期	表、グラフの作成
3 学 期	検定対策 過去問

何で学ぶか(教材)

全商情報処理検定 模擬試験問題集

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 PC実習

教科名 自己表現 授業時数 週 4 単位 コース・学年 研志 コース 2 学年

- ・乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を 習得する。
- 目・子どもの健全な成長に関心をもち、子どもにかかわる意欲や能力、実践的な態度を身につ標ける。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

割	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	使 え る	活用Ⅱ	・子どもの発達段階に即し たかかわりをする	・子どもが関心を抱くもの を作成・表現する	・子どもの発達に関心をもつ
価基	できる	活 用 I	・子どもの発達段階路理解 する	・子どもが関心を抱くもの を見いだす	・保育に対する関心をもつ
準	わかる		・子どもの発達段階に応じ た対応を身につける	・子どもの発達段階や興味 関心によって個々に応じた 対応をする	・子どもに関心をもち、意 欲的に子どもとかかわろう とする
矽	研志力(仮)		整理・分析力、行動力 他者受容力	整理・分析力、行動力 他者受容力、自己表現力	整理・分析力、行動力 他者受容力、自己表現力
1111	評価方法		・定期考査 ・保育実習	• 保育実習	• 保育実習

いつ,何を学ぶか(学習内容)

		学	習	内	容
1 学 期		オリエンテ 実習用エプ 幼稚園実習 ・自己紹介 ・施設見学 ・リズム・	ロンの作成・給食補助		
2 学 期	8~12月	児童文化保育参加	・表現遊び 化財を用い 加		見学
3 学 期	1~3月	発表会の第 ・調べ学習・学習発表 ・グループ	習 表づくり		

何で学ぶか(教材)

どのよう	うに学ぶか	(授業方	法など)

講義、演習、実習

科目名 総合的な探究の時間 授業時数

週 1 単位

2 学年

、វ木九〇八号间 コース・学年 研志 コース

目 探究の見方,考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通し自己理解、他者 理解を深め、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	授業や外部講師の講演から 得られた知識をもとに、自 ら関連することを調べ、活 用するとともに、探究の意 義や価値を実社会や自己と 関連付けて理解している。	異なる意見・価値観を持つ人と理解 し合うことの重要性を想像できる。 また,自ら独創的な課題や仮説を立 て,情報収集,整理・分析する方法 を工夫し,他のことに関連付けつ つ,まとめ・表現することができ る。	学習内容を自分事として捉え,常に自分自身,相手,社会など異なる3つ以上の立場に立ちながら,他者と協働して課題を解決することができる。
価	A	カュ	授業や外部講師の講演から 得られた知識を活用すると ともに,実社会や自己と関 連付けて,探究の意義や価 値を理解している。	異なる意見・価値観を持つ人と 理解し合うことの重要性を想像 できる。また、自ら課題や仮説 を立て、情報収集、整理・分析 する方法を工夫し、まとめ・表 現することができる。	学習内容を自分事として捉え,自分自身と相手など複数の異なる立場に立ちながら,他者と協働して課題を解決することができる。
基	В	できる	授業や外部講師の講演から得られた知識を活用し,探究の意義や価値をおおむね理解している。	自ら課題や仮説を立て, 情報を集め,整理・分析 し,まとめ・表現するこ とができる。	学習内容を自分事として 捉え,他者と協働して課 題を解決することができ る。
準	С		授業や外部講師の講演の 内容をおおむね理解して いる。	与えられた課題に対して,情報を集め,整理・ 分析し,まとめ・表現することができる。	他者と協働して課題を解 決しようとする姿勢があ る。
評	評価方法		レポート・プロトタイ プ・プレゼン内容などの 成果物	レポート・プロトタイ プ・プレゼン内容などの 成果物, グループ活動	レポート・プロトタイ プ・プレゼン内容などの 成果物, グループ活動

いつ, 何を学ぶか(学習内容)

	学	習旨	内	容
1 学 期	チームビルデ	イング		
2 学 期	国際社会問題 (児童労働な		理解を深め	かよう
3 学 期	社会問題を解	決するた	めの行動を	さ起こそう

何で学ぶか(教材)

Free The Children Japan 提供教材

どのように学ぶか(授業方法など)

- グループ活動
- オンライン講演会
- 講師招聘

科目名

日本史A

授業時数

コース・学年

週

研志 コース

2 単位 2 学年

近現代の歴史的事象と現在との結びつきを調べ考える活動を通して現代の社会やその諮問題が歴史的に形成されたものであるという歴史を学ぶ意義に気付く 近現状の日本史の展開念、年表や地図、その他の資料に基づいて学習し、近代社会が成立し発展する過程を理解する 近代社会が成立し発展する過程を地理的条件や世界の歴史と問連付けて客寮することを通し、歴史的思考力をは付ける 主体的な歴史学習と通して、現代の日本と世界の抱える諸課題について等象も、し国際社会において平和で民主的な国家・社会を形成するために、私たちが果たすべき役割について考える 目

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	ええ	近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を意欲的に身に付け,近代社会が成立 し発展する過程を十分に理解することが できる。	歴史的に形成された諸課題について、 様々な理解、立場があることを踏まえ、 公正に判断することができ、課題につい ての考察や判断の過程や結果を、効果的 な方法を選択して適切に表現することが できる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察することができる。また、得られた資料や情報を効果的に活用し、討議・調査等を行うことができる。
価	A	~	近現代の基本的な歴史的事象に関する知 識を身に付け,近代社会が成立し発展す る過程を理解することができる。	歴史的に形成された諸課題について, 様々な理解,立場があることを踏まえ, 公正に判断することができ、課題につい ての考察や判断の過程や結果を,適切に 表現することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、考察することができる。また、 得られた資料や情報を活用し、討議・調査を行うことができる。
基	В		近現代の基本的な歴史的事象に関する知 識を身に付け,近代社会が成立し発展す る過程を概ね理解することができる。	歴史的に形成された諸課題について、公正に判断することができ、課題についての考察や判断の過程や結果を、適切に表現することができる。	いだし、考察することができる。また、
準	С	す	近現代の基本的な歴史的事象に関する知 識を身に付け,近代社会が成立し発展す る過程をある程度理解することができ る。	歴史的に形成された諸課題についての考 察や判断の過程や結果を,表現すること ができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、考察することができる。また、 得られた資料や情報を活用し、グループ 内等で発言することができる。
評	評価方法		授業 定期考査 提出物 等	授業 定期考査 提出物 等	授業 定期考査 提出物 等

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	私たちの時代と歴史 近代日本の形成
2 学 期	東アジア世界の変動と日本 二つの世界大戦と日本
3 学 期	第二次世界大戦後の国際社会と日本 現代世界と日本

何で学ぶか(教材)

日本史A (東京書籍) 日本史Aワークノート(東京書籍)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

グループ討議

 科目名
 現代文B
 授業時数
 週 3 単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 看護医療福祉系進学

目 近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S		複雑な文章の正確な読み 取りと理解および語彙の 正確な意味の理解,活用が できる。	必要な情報を用い、課題 や目的に応じた適切な表 現による文章を書き,自分 の考えを深め,発展させて いる。	自分の意見,他者の意見を 論理的にまとめ,表現する 力を高めるとともに,その 向上を図ろうとする。
価	A	713	近代以降の様々な文章を 通して,論理展開の形式や 語彙,文学の表現技法等を 正確に理解する。	論理展開や描写,表現技法 を把握しつつ,文章の主題 を的確捉えて表現でき る。	自らの意見をまとめ,進んで表現したり 理解したりするとともに,伝え合おうとする。
基	В	できる	文章を的確に読み取り, 目的に応じて幅広く読む ことで,自分の考えを深 め,発展させている。	自分の考えを適切に整理 し,論理的かつ効果的に表 現できる。	自分の考えをまとめつつ, 周りの友人と共同して課 題解決に努める。
準	С	す	文章展開および言葉の特 徴やきまりなどについて の理解を深め,知識を身に 付ける。	基礎的な語彙力や文法力に基づき,筋道を立て考えつつ,それを表現する。	授業に必要な教材の準備 や、身だしなみ等を整え る。
評	評価方法		授業時の観察・定期考 査・小テスト・校内漢字 テスト	授業時の観察・定期考 査・小テスト・レポート 等	授業に臨む姿勢や意欲, グ ループ活動等での活動成 果

いつ,何を学ぶか(学習内容)

		学	羽台	内	容
1 学 期	[小説(1)]小説の	表現の読み 基本的な の基本的		
2 学 期	[小説(2) [短歌・信]小説の多 非句]表現	ら様な在り 上の特色を	旨を的確にと 方を理解する : とらえ, 作品 の心情をつた	5 品を深く味わう
3 学 期	[評論(4)]対比に)]長編小	よる論の	て適切に誘 展開を理解 を丁寧に追	- / 0 - 0

何で学ぶか(教材)

明治書院『新 高等学校 現代文B』 明治書院『新 高等学校 現代文B 学習課題ノート』

桐原書店『常用漢字 ワイドアル ファ』

浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

グループ学習・ペア学習

 科目名
 コミュニケーション英語II
 授業時数
 週 3 単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 看護医療福祉系進学

| 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	呼価の観点 知識・技能 思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態 度		
評	S	え	未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	まとまりのある文章を思 考・表現することができ る。	多様な場面における言語 活動に取り組むことがで きる。
価	A	わかる	相手が表現する内容を正 しく捉えることができ, 内容を理解することがで きる。	目的に応じた聞き方・読 み方をすることができ る。	できないことに挑戦し, 他と協働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。
基	В	き	英語を聞いたり読んだり して,情報や考えなどを 的確に理解できる。	適切な用語・要点を捉え ることができる。	できないところを人に聞いたり,他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準	C	する	基本文や基本問題を読ん だり、解くことができ る。	新出単語や表現について 理解し,適切に用いるこ とができる。	授業に臨むための準備が できている。 (教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評	価方	法	授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出 物・プレゼンテーション	授業・提出物・インタ ビューテスト

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習	内	容	
1 学 期	that節				
2 学期	疑問詞+to+ 分詞構文	不定詞			
3 学 期	関係代名詞、 過去完了形	what			

何で学ぶか(教材)

*
新田版『Revised COMET ENGLISH Communication II』

数研出版 COMET コメット英単語

プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習 タブレット教材

科目名

目

英語表現 I

授業時数 週

週 2 単位

研志

2 学年

プログログログロース

看護医療福祉系進学

コース

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	パラグラフの構成に基づいて情報や考えなどをま とめ,文章を書くことが できる。	聞き手や目的に応じて, 紹介するトピックを決 め,原稿書いたり発表し たりすることができる。	積極的にコミュニケー ションを図ろうとしてい る。
価	A	カゝ	読み手や目的に応じて, つなぎの言葉を使って文 章を書くことができる。	自分のことや与えられた 課題について書いたり即 興で話したりすることが できる。	間違いを恐れず, 積極的 に表現しようとしてい る。
基	В		モデル会話を英語らしい 発音で発話することがで きる。	学んだ文法を使って,文章を簡潔に書くことができる。	モデル会話に関心を持 ち,聞き,発話しようと している。
準	С		学習した文法を理解し, 知識として定着してい る。	例文を英語らしい発音で 発話することができる。	授業を受けるための準備 ができている。
評価方法		法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習首	内	容	
	文の種類				
1	文型と動詞				
学 期	時制				
//	助動詞				
	受動態				
2 学	不定詞				
字 期	動名詞				
//-	分詞				
	関係詞				
3	比較				
学 期	仮定法				

何で学ぶか(教材)

啓林館	[Vision	Quest	English	Expression	T	Core
	1 1 1 2 1 0 11	Quest	LIIGITSII	LAPICSSION		COLET

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習

ペア学習・グループ学習

 科目名
 数学 I
 授業時数
 週 2 単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 看護医療福祉系進学

目 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点 知識・技能		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	応用問題において問題の 意図を適切に理解し、公 式を応用して解くことが 出来る。	事象を多面的に深く理解 し、他者に的確に説明す ることが出来る。	数学を活用し、別解を作成したり、様々な分野の考え方を取り入れて回答を作成することが出来る。
価	A		標準問題において適切な 公式を選択し、解くこと が出来る。	1つ1つの考え方の根本を理解し、思考のイメージを持ちながら問題を解くことが出来る。	自ら問題を解き、わから ないときは他者に聞いた り調べたりして回答を作 成することが出来る。
基	В	き	基本的な公式を、教科 書・参考書を用いながら 解くことが出来る。	適切な用語・記号を使い、論理的な回答を作成することが出来る。	問題の類題の解答や、解 説などを参考に、問題を 解くことが出来る。
準	С		解答、解説を参考にしな がら、類題を解くことが 出来る。	問題文の意味を理解し、 解答解説を参考にしなが ら回答を作成することが 出来る。	与えられた課題に取り組 み、期限内に提出物を提 出することが出来る。
評価方法		法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習	内	容	
1 学 期	数と式 1次不等式 集合と命題				
2 学 期	三角比 正弦定理、余 場合の数と確				
3 学 期	整数の性質				

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 最新数学 I』 数研出版『改訂版 最新数学A』 数研出版『改訂版 3ROUND数学 I +A』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義ペア学習・グループ学習

科日名	世界中Δ	授業時数	週 2 単位	2 学年
件日名	世界史A	コース	研志 コース	看護

世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	世界の歴史について,地 理的条件や日本の歴史と 関連付けながら理解し, その知識を身につけてい る。	世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史 と関連付けて考察し,その 過程や結果を適切に表現す ることができる。	世界の歴史に対する興味・関心を高め, 意欲的に課題に取り組み追及している。
価	A	わかる	世界の歴史について,地 理的条件や日本の歴史と 関連付けながら理解して いる。	自ら問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取り整理してまとめることができる。	わからないことを調べ, 他と協働しながら課題を 解決することができる。
基	В	できる	世界の歴史についての基 本的なを流れを理解し, その知識を身につけてい る。	問題意識を持ち,問題解 決の見通しを立て,必要 な情報を収集し情報を読 み取ることができる。	わからないところを自ら 人に聞いたり,他の者が 困っているときに一緒に 考察することができる。
準	С	する	世界の歴史についての基 本的な事柄を理解してい る。	時代の変化を学ぶことで,今を生きる自分が過去の歴史とつながっていることを知る。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評価方法		法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	前近代の諸文明 アジア・アフリカ・ヨーロッパ・南北アメリカの文明 一体化に向かう世界 繁栄するアジア・大航海時代
2 学 期	欧米の工業化とアジア諸国の動揺 ョーロッパとアメリカの諸革命・アジア諸国の動揺・東アジアの大変動 現代社会の芽生えと世界大戦 第一次世界大戦・民族自決・第二次世界大戦
3 学 期	冷戦から地球社会へ 冷戦・冷戦の終結・地球社会への歩み

何で学ぶか(教材)

帝国書院『明解 世界史A』 帝国書院『明解 世界史Aノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習・グループ学習

利日夕	从	授業時数	週	2	単位	2	学年
竹 日石	14 首	コース・学年	研志		コース	看護医	療福祉系進学

目 各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		見点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	実践の中で技術や戦術,正 しい知識を用いて,楽しく 安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で 状況を適切に判断し,プレー をしたり指示を出すことが できる。	問題解決の過程を振り返り、 考察し,自ら評価・改善しよ うとすることができる。
価	A		戦術や技術を適切な場面で 生かし,集団・チームの仲間 と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し、より大きな力を発揮するために、集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに,自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い,共に考察することができる。
基	В		基礎練習を正しくおこない, 競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技 術を理解し、またその競技の ルール等を熟知している。	できないことに挑戦し,他と 協働しながら問題解決へ向 かおうとすることができ る。
準	С	する	基本的な身体機能を理解し, 基礎体力を身に付けてい る。	健康健全な身体を求め,機能解剖やトレーニング方法,また食育,栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備が できている。(教材準備・服 装・身のまわりの整理整頓 など)
評価方法		法	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						
	学	習	内	容			
1 学 期	体つくり運動 体力テスト 陸上競技	ħ					
2 学 期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットオ						
3 学 期	バドミントン ダンス	/					

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習(ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析

 科目名
 保健
 授業時数
 週 1 単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 看護医療福祉系進学

生涯の各段階において健康についての課題があること及び我が国の健康・医療制度や機関を適切に活用すること、社会生活における健康の保持増進には環境や食品、労働などが深くかかわっていることを理解する。また、自らの行動を振り返り、自身の現状を適切に把握する力を身に付ける。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	社会生活における健康の保 持増進に関わる事情から課 題を発見し、自らの健康を 管理することおよび環境を 改善することができる。	日常生活での健康に関する 知識の活用方法を適切に判 断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え,実行することができる。
価	A	わかる	各段階における健康の課題 や我が国の健康・医療制度 や機関の適切な活用の仕方 がわかる。	自身の現状を適切に把握 し、用途に応じて、適切な 施設や制度の選択ができ る。	様々な健康問題について関 心を持ち,自他の健康につ いて考えることができる。
基	В		健康の保持増進には、個人 的要素だけでなく、社会的 要素が深くかかわっている ことを理解できる。	適切な用語・記号を使い, 分かりやすく解説を書くこ とができる。	わからないところを自ら人 に聞いたり,他者が困って いるときに一緒に考察する ことができる。
準	С		保健に関する重要語句が理 解できる。	語句の意味を理解し, 用語 や記号を適切に用いること ができる。	授業を受けるための準備が できている(教材の準備・ 服装・身の回りの整理整頓 など)。
評	評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	思春期と健康,性への関心・欲求と性行動 妊娠・出産と健康,避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康
2 学 期	中高年期と健康, 医薬品とその活用 医療サービスとその活用 保健サービスとその活用 さまざまな保健活動や対策
3 学 期	大気汚染と健康,水質汚濁・土壌汚染と健康 環境汚染を防ぐ取り組み ごみの処理と上下水道の整備,食品の安全を守る活動 働くことと健康,働く人の健康づくり

何で学ぶか(教材)

大修館書店

『最新高等 保健体育[改訂版]』 大修館書店

『最新高等 保健体育ノート[改訂版]』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

グループ学習

 科目名
 化学基礎
 授業時数
 週 2 単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 看護医療

日 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、理科の見方・考え方を 働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究す るために必要な資質・能力を育成することを目指す。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S	んっ	化学に関する事物・現象について,基本的な概念・原理・法則を十分に理解し,数値の取り扱いも確実にできる。実験,実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ,実験・観察 データをもとに科学的に正 しく考察できる。 実験・観察の結果を適切に 表現できる。	グループ活動および実験や実習 等においてより深く探究する姿 勢を持ち,調べたり考察したり する。提出課題を期限内に提出 しその質も高い。
価	A	かかっ	化学に関する事物・現象について,基本的な概念・原理・法則を概ね理解し,数値の取り扱いもできる。 実験,実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ,実験・観察データから分かること もとに,考察することが できる。	グループ活動および実験や実習 等において自らの役割を見出し 主体的に活動する。提出課題を 期限内に提出する。
基	В	でき	化学に関する事物・現象に ついて、基本的な概念・知 識が概ね身についている。 実験・実習の基本的な操作 ができる。	図表やグラフ,実験・観察データから分かること を指摘できる。	授業中に分からないことを積極 的に質問したり,教え合ったり できる。提出課題を提出する。
準	С		化学に関する事物・現象 について,基本的な概 念・知識がある程度身に ついている。	図表やグラフをある程度 読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し,積極的 に発言やグループ活動を行う。 提出課題を提出しようとする態 度が見られる。
評	評価方法		定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	授業態度 提出物 グループ活動 ワークシート レポート 等

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
	序章 化学と人間生活
1 学 期	第1章 物質の構成
	第2章 物質と化学結合
2 学	第3章 物質の変化
子 期	1節 物質量と化学反応式
	2節 酸と塩基
	第3章 物質の変化
3 学	3節 酸化還元反応
期	

何で学ぶか(教材)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義,演習 実験,実習 グループ活動

科目名	事法 1	授業時数	週 1	単位	2 学年
件 日 石	肯坦 I	コース・学年	研志	コース	キャリア・公務員

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を 目 高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化に 標 ついての理解を深める。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	目的や用途に即した芸術 的な表現について構成す る事項を確認し,自ら表 現活を行うことが出来 る。	文字や書の伝統と文化に ついて幅広く理解し,そ の価値を考えることが出 来る。	書の持つ良さや文字に高い関心を持ち,生涯にわたって書道の文化を大切に出来る。
価	А	わかる	古典の美とその技法を学び、普遍性のある表現を 構想し、工夫することが 出来る。	書のもつ良さや美しさを 想像的に味わうことが出 来る。	表現活動を通し意図的, 主体的に表現の構想から 完成に至るまでの充実感 や喜びを味わうことが出 来る。
基	В	できる	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想することが出来る。	自己のねらいを達成する ために、伝統的な書の美 を感受し、書で表現する ことができる。	古典の美とその技法に関 心を持ち、積極的に表現 技法を高めることが出来 る。
準	С		自らの完成に基づいた表 現の工夫を行い,段階的 に表現力を高めることが 出来る。	書の効果的な表現を模索 し,実作に移すことが出 来る。	書の創造的活動の喜びを 味わい,主体的に表現や 鑑賞の創造的活動に取り 組もうとする。
評	評価方法		提出作品 (練習・清書作品) 理論に関する筆記試験	ワークシート	授業に臨む姿・様子 ワークシート

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	・「漢字仮名交じりの書」 I ・「漢字の書」楷書の古典に学ぶ I
2 学 期	・「漢字の書」楷書の古典に学ぶⅡ ・篆刻(姓名印を1稞彫ろう) ・「漢字の書」楷書の古典に学ぶⅢ ・楷書の古典を基にした漢字創作
3 学 期	・「仮名の書」 ・「漢字仮名交じりの書」 II

何で学ぶか(教材)

 『書 I 』 教育図書

 補助プリント

 ワークシート

 書道用具一式

どのように学ぶか(授業方法など)

【実技・鑑賞・発表】 一斉授業 グループ学習

科目名		授業時数	週 1 単	单位	2 学年
件日名	日米 1	コース	研志	コース	看護医療福祉

| 幅広い音楽活動を通して音楽を愛好する心情を育むと共に、音楽の歴史と大作曲家の名曲に触れることで音楽文化についての理解を深める。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	楽譜に階名を書かなくても 歌唱・リコーダーの演奏が できる。	自己のイメージを表現する ための技能を身につけるこ とができる。	グループ・アンサンブル学 習を通して音楽表現を工夫 することができる。
価	А	わかる	・音楽の様々な表現方法を 知ることができる。 ・音楽の歴史的背景に関心 を持ち鑑賞することができ る。	・アーティケレージョンを 意識した表現ができる。 ・時代による音楽のスタイ ルの違いを感じ取ることが できる。	グループ・アンサンブル学 習に積極的に取り組むこと ができる。
基	В	できる	・腹式呼吸や正確なリコー ダーの運指で、合唱・リ コーダーアンサンブルがで きる。 ・音楽の歴史に関心を持つ ことができる。	・ # や b のあるメロデイを 流れるようにスムーズに演 奏することができる。 ・時代による音楽の変化を 感じ取りながら鑑賞するこ とができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理 論の学習に積極的に取り組 むことができる。
準	С		・合唱とリコーダーアンサンブルに意欲的に取り組むことができる。 ・音楽の歴史と鑑賞を学ぶことの意義を理解できる。	音楽に関心を持ち,合唱や リコーダーアンサンブルに 喜びを感じることができ る。	授業を受けるための準備が できている。(教材の準備・ 服装・身の回りの整理整頓 など)
評	評価方法		授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1	ルネサンス・バロック時代の音楽
学	アルトリコーダー「グリーンスリーブス」
期	歌唱「見上げてごらん夜の星を」
2 学 期	古典派・ロマン派の音楽 歌唱・リコーダー「花」
3	近代の音楽
学	歌唱「Memory」
期	アルトリコーダー「モルダウ」

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSAI」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア練習・グループ練習

科目名	事况 1	授業時数	週 1	単位	2 学年
件 日 石	肯 但 Ⅰ	コース・学年	研志	コース	看護医療福祉

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を 高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化に で、ついての理解を深める。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S		目的や用途に即した芸術 的な表現について構成す る事項を確認し,自ら表 現活を行うことが出来 る。	文字や書の伝統と文化に ついて幅広く理解し,そ の価値を考えることが出 来る。	書の持つ良さや文字に高 い関心を持ち,生涯にわ たって書道の文化を大切 に出来る。
価	A	わかる	古典の美とその技法を学び、普遍性のある表現を 構想し、工夫することが 出来る。	書のもつ良さや美しさを 想像的に味わうことが出 来る。	表現活動を通し意図的, 主体的に表現の構想から 完成に至るまでの充実感 や喜びを味わうことが出 来る。
基	В	できる	書表現の諸要素を感受 し、感性を働かせなが ら、自らの意図に基づい て構想することが出来 る。	自己のねらいを達成する ために、伝統的な書の美 を感受し、書で表現する ことができる。	古典の美とその技法に関 心を持ち、積極的に表現 技法を高めることが出来 る。
準	С		自らの完成に基づいた表 現の工夫を行い,段階的 に表現力を高めることが 出来る。	書の効果的な表現を模索 し,実作に移すことが出 来る。	書の創造的活動の喜びを 味わい、主体的に表現や 鑑賞の創造的活動に取り 組もうとする。
評	評価方法		提出作品 (練習・清書作品) 理論に関する筆記試験	ワークシート	授業に臨む姿・様子 ワークシート

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	・「漢字仮名交じりの書」 I ・「漢字の書」楷書の古典に学ぶ I
2 学 期	・「漢字の書」楷書の古典に学ぶⅡ ・篆刻(姓名印を1稞彫ろう) ・「漢字の書」楷書の古典に学ぶⅢ ・楷書の古典を基にした漢字創作
3 学 期	・「仮名の書」 ・「漢字仮名交じりの書」Ⅱ

何で学ぶか(教材)

 『書 I 』 教育図書

 補助プリント

 ワークシート

 書道用具一式

どのように学ぶか(授業方法など)

【実技・鑑賞・発表】 一斉授業 グループ学習

科目名	白己表現	授業時数	週 2 単位	2 学年
件日石	日口公坑	コース	研志 コース	看護医療福祉

目 自己を表現する手段(書く・話す・傾聴していると示す)について幅広く学び、医療・福祉職標で働く上での資質向上を図りつつ、受験に必要な表現する力を高める。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	相手や目的、意図に応じた 適切で論理的で時事をふま えた自己表現ができ、協働 して課題について意見交換 できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く・傾聴」しつつ,意見交換から考えを深め,自説をまとめることができる。	論理的に自己の主張を発言・記述しようとし、協働して医療・福祉の諸問題について考察しようとする。
価	A	わかる	意図に応じた適切で論理 的な自己表現ができ、協 働して課題について意見 交換できる。	目的や場に応じ、課題の意図に添って効果的に「話す・書く」ことに努め、意見交換しながら自説をまとめることができる。	自分の考えを分かりやすく他者に伝えようとし、 協働して医療・福祉の諸 問題について考察しよう とする。
基	В	できる	自分の知識や体験に基づいて,要求される制限を 満たしつつ,自己表現が できる。	目的や場、課題の意図を 理解して読み書きや意見 交換ができる。	提出物の準備ができている。自分の考えを持ち、 課題について他者と一緒 に考えようとする。
準	С	· d	目の前の課題に向き合い、自分なりの自己表現 ができる。	目的や場、課題の意図を 理解してある程度, 読み 書きや意見交換ができ る。	授業を受けるための準備 ができている。 (教材の 準備・服装)
評平	評価方法		授業,定期考査,発表	授業,定期考査、発表、 提出物	授業,提出物,発表

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	スピーチ(「分かりやすく伝える・相手を理解する」態度,時間は30秒,40秒),新聞記事を使った意見文(結論→根拠の展開),テーマ型意見文(400字,600字),課題文要約
2 学 期	川柳(夏休みを短く切り取る),課題文要約、 テーマ型意見文・テーマ型小論文,医療福祉時事 や業界のプロについての新聞記事・出前授業につ いて気付きや感想をまとめる,短歌(2種類),ス ピーチ
3 学 期	スピーチ (1分間)、テーマ型小論文、課題文型小論文、医療福祉時事や業界のプロについての新聞記事について気付きや感想をまとめる、校外体験学習での気付き・感想をまとめる

何で学ぶか(教材)

オリジナル教材,日本経済新聞を はじめとした記事,医療と安全管 理総集版(ニホンミック),専門 学校・大学の過去問題,専門学校 の出前授業,職業体験,講演・講 座

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義、グループワーク,ペア ワーク,課題,講演,各種医療体験 コース・学年

研志 コース

2 学年

ビジネスに関する情報を収集、処理、分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の 目 意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活 標 用する能力と態度を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	情報を適切に収集、処理、発信する技能を習得 し活用できる。	情報を収集、処理、発信 する場合に、方法を工夫 したり、目的に応じて手 段や方法を改善できる。	情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うことができる。
価	A	わかる	情報を適切に収集、処理、発信するための基礎 的な知識を身につけている。	情報を収集、処理、発信 する場合に、方法を工夫 したり、目的に応じて手 段や方法を判断できる。	表計算ソフトウェア (Excel)の習得に積極的 に取り組んでいる。
基	В	き	情報社会における情報技 術の役割や影響を理解し ている。	情報モラルを理解できている。	コンピュータや情報通信 ネットワークなどに関心 を持ち取り組んでいる。
準	С		情報に関する重要語句が 理解できる。	語句の意味を理解し, 用 語や記号を適切に用いる ことができる。	授業を受けるための準備 ができている(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)。
評	評価方法		授業・定期考査・検定	授業・定期考査	授業・定期考査

いつ, 何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1	情報の活用と情報モラル
学	ビジネスと情報
期	PCの基本操作
2	ビジネス情報の処理と分析
学	関数の利用
期	表、グラフの作成
3 学 期	検定対策 過去問

何で学ぶか(教材)

全商情報処理検定 模擬試験問題集

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 PC実習

総合的な探究の時間 授業時数 科目名

週 1 単位

2 学年

コース・学年 研志 コース

程式の見方、考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通し自己理解、他者 理解を深め、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	授業や外部講師の講演から 得られた知識をもとに、自 ら関連することを調べ、活 用するとともに、探究の意 義や価値を実社会や自己と 関連付けて理解している。	異なる意見・価値観を持つ人と理解 し合うことの重要性を想像できる。 また,自ら独創的な課題や仮説を立 て,情報収集,整理・分析する方法 を工夫し,他のことに関連付けつ つ,まとめ・表現することができ る。	学習内容を自分事として捉え,常に自分自身,相手,社会など異なる3つ以上の立場に立ちながら,他者と協働して課題を解決することができる。
価	A	カゝ	授業や外部講師の講演から 得られた知識を活用すると ともに,実社会や自己と関 連付けて,探究の意義や価 値を理解している。	異なる意見・価値観を持つ人と 理解し合うことの重要性を想像 できる。また、自ら課題や仮説 を立て、情報収集、整理・分析 する方法を工夫し、まとめ・表 現することができる。	学習内容を自分事として捉え,自分自身と相手など複数の異なる立場に立ちながら,他者と協働して課題を解決することができる。
基	В	できる	授業や外部講師の講演から得られた知識を活用し、探究の意義や価値を おおむね理解している。	自ら課題や仮説を立て, 情報を集め,整理・分析 し,まとめ・表現するこ とができる。	学習内容を自分事として 捉え,他者と協働して課 題を解決することができ る。
準	С		授業や外部講師の講演の 内容をおおむね理解して いる。	与えられた課題に対して、情報を集め、整理・ 分析し、まとめ・表現することができる。	他者と協働して課題を解 決しようとする姿勢があ る。
評	評価方法		レポート・プロトタイ プ・プレゼン内容などの 成果物	レポート・プロトタイ プ・プレゼン内容などの 成果物, グループ活動	レポート・プロトタイ プ・プレゼン内容などの 成果物, グループ活動

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	<u> P</u>	学	習	内	容
1 学 期	チームビ	ルディン	グ		
		会問題に 労働など		解を深めよ	; j
3 学 期	社会問題	夏を解決	するための	の行動を起	こそう

何で学ぶか(教材)

Free The Children Japan 提供教材

どのように学ぶか(授業方法など)

- グループ活動
- オンライン講演会
- 講師招聘

科目名

日本史A

授業時数

コース・学年

週

研志 コース

2 単位 2 学年

近現代の歴史的事象と現在との結びつきを調べ考える活動を通して現代の社会やその諮問題が歴史的に形成されたものであるという歴史を学ぶ意義に気付く 近現状の日本史の展開念、年表や地図、その他の資料に基づいて学習し、近代社会が成立し発展する過程を理解する 近代社会が成立し発展する過程を地理的条件や世界の歴史と問連付けて客寮することを通し、歴史的思考力をは付ける 主体的な歴史学習と通して、現代の日本と世界の抱える諸課題について等象も、し国際社会において平和で民主的な国家・社会を形成するために、私たちが果たすべき役割について考える 目

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度	
評	使 S え 評		近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を意欲的に身に付け,近代社会が成立 し発展する過程を十分に理解することが できる。	歴史的に形成された諸課題について、 様々な理解、立場があることを踏まえ、 公正に判断することができ、課題につい ての考察や判断の過程や結果を、効果的 な方法を選択して適切に表現することが できる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察することができる。また、得られた資料や情報を効果的に活用し、討議・調査等を行うことができる。	
価	A	~	近現代の基本的な歴史的事象に関する知 識を身に付け,近代社会が成立し発展す る過程を理解することができる。	歴史的に形成された諸課題について, 様々な理解,立場があることを踏まえ, 公正に判断することができ、課題につい ての考察や判断の過程や結果を,適切に 表現することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、世界の歴史や国際環境等と関連づけて、考察することができる。また、 得られた資料や情報を活用し、討議・調査を行うことができる。	
基	В		近現代の基本的な歴史的事象に関する知 識を身に付け,近代社会が成立し発展す る過程を概ね理解することができる。	歴史的に形成された諸課題について、公正に判断することができ、課題についての考察や判断の過程や結果を、適切に表現することができる。	いだし、考察することができる。また、	
準	С	す	近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け,近代社会が成立し発展する過程をある程度理解することができる。	歴史的に形成された諸課題についての考 察や判断の過程や結果を,表現すること ができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし、考察することができる。また、 得られた資料や情報を活用し、グループ 内等で発言することができる。	
評	評価方法		授業 定期考査 提出物 等	授業 定期考査 提出物 等	授業 定期考査 提出物 等	

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	私たちの時代と歴史 近代日本の形成
2 学 期	東アジア世界の変動と日本 二つの世界大戦と日本
3 学 期	第二次世界大戦後の国際社会と日本 現代世界と日本

何で学ぶか(教材)

日本史A (東京書籍) 日本史Aワークノート(東京書籍)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

グループ討議

授業時数 週 3 単位 2 学年 現代文B 科目名 コース 研志 コース 大学進学

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感 目 じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を 標育でる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	使 複雑な又草の正確な読み 取りと理解および語彙の 現によるる 正確な意味の理解,活用 分の考える		必要な情報を用い,課題 や目的に応じた適切な表 現による文章を書き,自 分の考えを深め,発展さ せている。	自分の意見,他者の意見 を論理的にまとめ,表現 する力を高めるととも に,その向上を図ろうと する。	
価	A	わかる	近代以降の様々な文章を 通して,論理展開の形式 や語彙,文学の表現技法 等を正確に理解する。	論理展開や描写,表現技法を把握しつつ,文章の 主題を的確捉えて表現で きる。	自らの意見をまとめ,進 んで表現したり理解した りするとともに,伝え合 おうとする。
基	В	できる	文章を的確に読み取り, 目的に応じて幅広く読む ことで,自分の考えを深 め,発展させている。	自分の考えを適切に整理 し,論理的かつ効果的に 表現できる。	自分の考えをまとめつつ、周りの友人と共同して課題解決に努める。
準	С		文章展開および言葉の特 徴やきまりなどについて の理解を深め、知識を身 に付ける。	基礎的な語彙力や文法力 に基づき,筋道を立て考 えつつ,それを表現す る。	授業に必要な教材の準備 や,身だしなみ等を整え る。
評	評価方法		授業時の観察・定期考 査・小テスト・校内漢字 テスト	授業時の観察・定期考 査・小テスト・レポート 等	授業に臨む姿勢や意欲, グループ活動等での活動 成果

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習	内	容
1 学 期	[随想]感性的な [小説(1)]小説の [評論(1)]評論文	基本的な	読み方	
2 学 期	[評論(2)]論の展開 [小説(2)]小説の創 [短歌・俳句]表現 [詩]詩の構成に沿	多様な在り上の特色を	方を理解する	品を深く味わう
3 学 期	[評論(3)]論の展 [評論(4)]対比に [小説(3)]長編リ 題に迫る。	よる論の	展開を理解	する。

何で学ぶか(教材)

東京書籍『精選現代文B』 東京書籍『精選現代文B 学習課題 ノート』 桐原書店『常用漢字 ワイドアル ファ』 浜島書店『常用国語便覧』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 グループ学習・ペア学習

利日夕	粉学 I	授業時数	週2単位	2学年
科目名	数子 I	コース	研志コース	キャリア・公務員・保育

世界では、大学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育りである。
はずることを目指す。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S		応用問題において問題の 意図を適切に理解し,公式 を応用して解くことが出 来る。	事象を多面的に深く理解 し,他者に的確に説明する ことが出来る。	数学を活用し,別解を作成 したり,様々な分野の考え 方を取り入れて回答を作 成することが出来る。
価	A		標準問題において適切な 公式を選択し,解くことが 出来る。	1つ1つの考え方の根本 を理解し, 思考のイメージ を持ちながら問題を解く ことが出来る。	自ら問題を解き、わからないときは他者に聞いたり 調べたりして回答を作成することが出来る。
基	В		基本的な公式を,教科書・ 参考書を用いながら解く ことが出来る。	適切な用語・記号を使い, 論理的な回答を作成することが出来る。	問題の類題の解答や,解説などを参考に,問題を解くことが出来る。
準	С	する	解答,解説を参考にしながら,類題を解くことが出来る。	問題文の意味を理解し,解 答解説を参考にしながら 回答を作成することが出 来る。	与えられた課題に取り組み,期限内に提出物を提出することが出来る。
評価方法		法	授業・定期考査・小テス ト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習	内	容
1 学 期	数と式 1次不等式 集合と命題			
2 学 期	三角比 正弦定理,余引 場合の数と確			
3 学 期	整数の性質			

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 最新数学 I』 数研出版『改訂版 最新数学A』 数研出版『改訂版 3ROUND数学 I +A』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習・グループ学習

利日夕	地学基礎	授業時数	週 2 単位		2 学年
付日名	地子垄诞	コース	研志	コース	文芸大学

世球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評	S		基本的な概念・原理・法則 を十分に理解し、数値の取 り扱いも確実にできる。 実験、実習の技能が確実に 身にいている。	図表やグラフ,実験・観察 データをもとに科学的に正 しく考察できる。 実験・観察の結果を適切に 表現できる。	任意提出物を確実に提出 する。 グループ活動において, 主体的に役割を果たす。
価	А	カゝ	基本的な概念・原理・法則 を概ね理解し、数値の取り 扱いもできる。 実験、実習の技能が概ね身 についている。	図表やグラフ,実験・観察データから分かること もとに,考察することが できる。	課題やワーク等を期限内に提出する。 任意提出物を積極的に提出する。 授業中に積極的に発言する。
基	В	できる	基本的な概念・知識が概ね 身についている。 実験・実習の基本的な操作 ができる。	図表やグラフ,実験・観察データから分かること を指摘できる。	課題やワーク等の提出物を遅れてでも提出する。 グループ活動に意欲的に 参加する。
準	С		基本的な概念・知識があ る程度身についている。	図表やグラフをある程度 読み取ることができる。	教材等の準備ができている。 私語や居眠り等をしない。 ノートやワークをきちんと書い ている。
評価方法		法	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	定期考査 確認テスト ワークシート レポート 等	授業態度 提出物 グループ活動 ワークシート レポート 等

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習首	内	容
1 学 期	惑星と宇宙の	しての地野 構成	求	
2 学 期	活動す 移り変	る地球わる地球		
3 学 期	大気と地球の			

何で学ぶか(教材)

教科書(数研 地学基礎(304))ワーク(第一 ネオパルノート)

どのように学ぶか(授業方法など)

講義,演習 実験,実習 グループ活動 (ポスターセッション等)

科目名 芸術演習(音楽)

授業時数

週 2 単位

コース・学年 研志文・芸大学進学コース 2 学年

音楽大学の受験に特化し、音楽理論とソルフェージュ等の専門科目に対応できる能力を身につける。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	①#♭二つまでの単旋律の 聴音と視唱ができる。	伴奏を付けずに,正しい音程 とリズムで音楽的な表現で 視唱ができる。	学習・練習してきたことを 自己評価できる。
価	A		①音楽の仕組みを理解する ことができる。 ②#♭一つまでの単旋律の 聴音と視唱ができる。	伴奏を付けずに,正しい音程 とリズムで視唱ができる。	できないところをできるよ うになるまで繰り返し練習 することができる。
基	В	できる	①楽譜の仕組みを理解する ことができる。 ②井りなしの単旋律の聴音 と視唱ができる。	伴奏を付け,正しい音程とリ ズムで視唱ができる。	予習・復習をすることがで きる。
準	С	する	楽典・聴音・視唱等の科目 があることを理解すること ができる。	専門科目を学習するのに必 要な心構えを理解できる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		法	授業 実技テスト 筆記テスト	授業 実技テスト 筆記テスト	授業 実技テスト 筆記テスト

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習	内	容
1 学 期	音符・休符・譜表・聴音 コールユーブンゲン		
2 学 期	新曲視唱 音程・音階・和音・ 聴音 コールユーブンゲン 新曲視唱		
3 学 期	聴音 コールユーブンゲン 新曲視唱 楽典演習	,	

何で学ぶか(教材)

教育芸術社 改訂音楽通論 コールユーブンゲン プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

個人又は複数人のレッスン形式

科日名		授業時数	週 1 単	单位	2 学年
件日名	日米1	コース	研志	コース	文・芸大進学

| 幅広い音楽活動を通して音楽を愛好する心情を育むと共に、音楽の歴史と大作曲家の名曲に触れることで音楽文化についての理解を深める。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	楽譜に階名を書かなくても 歌唱・リコーダーの演奏が できる。	自己のイメージを表現する ための技能を身につけるこ とができる。	グループ・アンサンブル学 習を通して音楽表現を工夫 することができる。
価	А	わかる	・音楽の様々な表現方法を 知ることができる。 ・音楽の歴史的背景に関心 を持ち鑑賞することができ る。	・アーティケレージョンを 意識した表現ができる。 ・時代による音楽のスタイ ルの違いを感じ取ることが できる。	グループ・アンサンブル学 習に積極的に取り組むこと ができる。
基	В	できる	・腹式呼吸や正確なリコー ダーの運指で、合唱・リ コーダーアンサンブルがで きる。 ・音楽の歴史に関心を持つ ことができる。	・ # や b のあるメロデイを 流れるようにスムーズに演 奏することができる。 ・時代による音楽の変化を 感じ取りながら鑑賞するこ とができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理 論の学習に積極的に取り組 むことができる。
準	С		・合唱とリコーダーアンサンブルに意欲的に取り組むことができる。 ・音楽の歴史と鑑賞を学ぶことの意義を理解できる。	音楽に関心を持ち,合唱や リコーダーアンサンブルに 喜びを感じることができ る。	授業を受けるための準備が できている。(教材の準備・ 服装・身の回りの整理整頓 など)
評価方法		法	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1	ルネサンス・バロック時代の音楽
学	アルトリコーダー「グリーンスリーブス」
期	歌唱「見上げてごらん夜の星を」
2 学 期	古典派・ロマン派の音楽 歌唱・リコーダー「花」
3	近代の音楽
学	歌唱「Memory」
期	アルトリコーダー「モルダウ」

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSAI」 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア練習・グループ練習

・美術大学の受験に特化し、美術理論と美術の専門科目に対応できる能力を身につける。・美術の学習内容に関心をもち、制作や鑑賞へのあこがれや期待をもつ

目標

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

Î	評価の観点		知識・技能思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
評	使える	活用Ⅱ	実践するために必要 な知識を身につける	制作活動や技法を適 切に判断できる	・それぞれの技法の特徴や対 象となる年齢を考える
価基	できる	活 用 I	目的に応じた道具や 技術を選択する	様々な技法を用いて 基礎的な制作をする	・様々な技法について学ぼう とする
準	わかる	習得	大学の中での芸術活 動の意義と役割を理 解する	様々な技法を用いて 表現できる	・様々な技法を用いて制作することができる
石	所志力(仮)		自己表現力、計画力	自己表現力、計画力	自己表現力、計画力
評価方法			課題の提出	課題の提出	課題の提出

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1	4月 オリエンテーション
学	5,6月 グラデーション制作
期	7,8月 名画の模写
2	9月 風景画の作成
学	10、11月 自画像の制作
期	12月 粘土の制作
3 学 期	1、2月 デッサン

何で学ぶか(教材)

画用紙、色鉛筆 クレヨン粘土 等

どのように学ぶか(授業方法など)

講義、演習

 科目名
 コミュニケーション英語 II
 授業時数
 週 3 単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 大学進学

| 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	まとまりのある文章を思 考・表現することができ る。	多様な場面における言語 活動に取り組むことがで きる。
価	A	わかる	相手が表現する内容を正 しく捉えることができ, 内容を理解することがで きる。	目的に応じた聞き方・読み方をすることができる。	できないことに挑戦し, 他と協働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。
基	В	き	英語を聞いたり読んだり して,情報や考えなどを 的確に理解できる。	適切な用語・要点を捉え ることができる。	できないところを人に聞いたり,他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準	C		基本文や基本問題を読ん だり、解くことができ る。	新出単語や表現について 理解し,適切に用いるこ とができる。	授業に臨むための準備が できている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評	評価方法		授業・定期考査・音読テスト	授業・定期考査・提出 物・プレゼンテーション	授業・提出物・インタ ビューテスト

いつ,何を学ぶか(学習内容)

		学	習	内	容	
1 学 期	that節					
2 学 期	疑問詞 分詞構	+to+不足 文	官詞			
3 学 期	関係代 過去完	名詞wha 了形	at			

何で学ぶか(教材)

*
新田版『Revised COMET ENGLISH Communication II』

数研出版 COMET コメット英単語

プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義 ペア学習 タブレット教材

科目名

英語表現 I

授業時数

週 2 単位

2 学年

コース

研志

コース 大学進学

世界 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	パラグラフの構成に基づいて情報や考えなどをま とめ,文章を書くことが できる。	聞き手や目的に応じて, 紹介するトピックを決 め,原稿書いたり発表し たりすることができる。	積極的にコミュニケー ションを図ろうとしてい る。
価	A	カゝ	読み手や目的に応じて, つなぎの言葉を使って文 章を書くことができる。	自分のことや与えられた 課題について書いたり即 興で話したりすることが できる。	間違いを恐れず, 積極的 に表現しようとしてい る。
基	В		モデル会話を英語らしい 発音で発話することがで きる。	学んだ文法を使って,文章を簡潔に書くことができる。	モデル会話に関心を持 ち,聞き,発話しようと している。
準	C		学習した文法を理解し, 知識として定着してい る。	例文を英語らしい発音で 発話することができる。	授業を受けるための準備 ができている。
評	評価方法		授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習	内	容	
1 学 期	文の種類 文型と動詞 時制 助動詞				
2 学 期	受動態 不定詞 動名詞 分詞				
3 学 期	関係詞 比較 仮定法				

何で学ぶか(教材)

啓林館『Vision Quest English Expression I Core』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習

ペア学習・グループ学習

科目名古典B授業時数週 3 単位2 学年コース研志コース大学進学

| 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	語句の意味,文語や訓読のきまりを理解し,日本の文化の特質や外国の文化との関係について理解を深めることができる。	古典特有の表現に注意し内容を的確に捉えるとともに, 古典の作品に表れているものの見方や考え方を踏まえ, 自分の考えを深めることができる。	すすんでさまざまな古典の 文章を読み,先人のものの見 方,考え方との関わりの中で 伝え合う力を深め,自分の思 いや考えを広げることがで きる。
価	A	カゝ	語句の意味,文語や訓読のきまりを理解し,日本の文化の特質や外国の文化との関係について考えることができる。	文章の種類を踏まえて,構成や展開などを的確に捉えるとともに,古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えることができる。	すすんでさまざまな古典の 文章を読み,先人のものの見 方,考え方との関わりの中で 伝え合う力を深め,自分の思 いや考えを広げようとする ことができる。
基	В	できる	古文を読むために必要な 文語のきまりや訓読のき まりについて理解しよう とする努力ができる。	必要に応じて書き手の考 えや目的, 意図をとらえて 内容を解釈することがで きる。	さまざまな古典の文章に親 しみ,日本の伝統的な言語文 化に対する理解を深めよう とすることができる。
準	С	する	古文を読むために必要な 最低限の文語のきまりや 訓読のきまりについて理 解しようとすることがで きる。	必要に応じて書き手の考えや目的, 意図をとらえて内容を解釈しようとすることができる。	授業を受けるための準備 を整え、さまざまな古典 の文章に親しもうとする ことができる。
評	評価方法		授業・小テスト・定期考査	授業・小テスト・定期考査	授業・小テスト・定期考 査・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学 習 内 容
1 学 期	(古文) 『十訓抄』『宇治拾遺物語』『古今 著聞集』『徒然草』『方丈記』 (漢文) 『季札挂剣』『漱石枕流』『梁上君 子』『病入膏肓』『不顧後患』『紀昌貫虱』 『畏饅頭』
2 学 期	(古文) 『竹取物語』『伊勢物語』『大和物語』『枕草子』 (漢文) 『鹿柴』『宿建徳江』『春夜洛城聞笛』『別董大』『涼州詞』『送友人月夜』 『鴻門之会』『四面楚歌』
3 学 期	(古文) 『源氏物語』『大鏡』 (漢文)儒家・道家の思想 論語, 孟子, 荀子, 老子, 荘子

何で学ぶか(教材)

三省堂『精選古典B改訂版』 数研出版『体系古典文法』 数研出版『体系古典文法 準拠ノート』 尚文出版『新明説漢文』 桐原書店『重要古文単語315』

どのように学ぶか(授業方法など)

講義・演習(学級単位による授業)

科目名数学Ⅱ授業時数週 4 単位2 学年コース研志コース大学進学

図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	生活から課題を発見し, 事象を数学化することが できる。	事象を論理的,かつ統合的・発展的に考察し,簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	数学を活用し、問題解決 の過程を振り返り考察 し、自ら評価・改善しよ うとすることができる。
価	A	カュ	複合問題の構成を的確に 捉え,適切な公式を用い て解くことができる。	1つ1つの考え方を論理的 にかつ秩序をもって解説 することができる。	できないことに挑戦し, 他と協働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。
基	В	き	課題に対して適切な公式 を選択し、解くことがで きる。	適切な用語・記号を使い、人が読んで分かる解 説を書くことができる。	できないところを自ら人 に聞いたり,他の者が 困っているときに一緒に 考察することができる。
準	С		基本的な式を計算した り,公式に代入して計算 したりすることができ る。	問題文の意味を理解し, 用語や記号を適切に用い ることができる。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評	評価方法		授業・定期考査・クリア テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

		学	習	内	容
1	第1章				
学			と方程式		
期	第3章	図形と	方程式		
	第3章	図形と	方程式		
2 学	第4章	三角関	数		
期	第5章	指数関	数と対数	関数	
3	第6章	微分法	と積分法		
学期					

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版 新編数学Ⅱ』 数研出版『3TRIAL数学Ⅱ』 または『3TRIAL数学Ⅱ+B』 補助プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習・グループ学習 タブレット教材 科目名数学B授業時数週 2 単位2 学年コース研志コース大学進学

| 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	数学的に解釈したり,数 学的に表現したりするこ とができる。	事象を論理的,かつ統合的・発展的に考察し,簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	粘り強く考え数学を活用 し、問題解決の過程を振 り返り考察し、評価・改 善しようとすることがで きる。
価	A		基本的な概念や原理・法 則を体系的に理解でき る。	事象を論理的に考察し, 問題を解決できる。	できないことに挑戦し, 他と協働しながら問題解 決へ向かおうとすること ができる。
基	В	できる	問題に応じて適切な公式 を使うことができる。	適切な用語・記号を使い,過程や結果を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり,他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
準	С		簡単な計算や,目的に応 じて適切に式変形でき る。	問題文の意味を理解し, 用語や記号を適切に用い ることができる。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評	評価方法		・授業・定期考査・クリアテスト	・授業・定期考査・提出物	・授業 ・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	羽首	内	容
1 学 期	ルとその ルと平面			
2 学 期	 ベクトル列と等比			
3 学 期	ろな数列 と数学的			

何で学ぶか(教材)

数研出版 改訂版新編数学B 数研出版 3ROUND 数学Ⅱ+B プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習・グループ学習 タブレット教材

科目名	世界史A	授業時数	週 2 単位	2 学年
件日名		コース	研志 コース	大学進学

世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	世界の歴史について,地 理的条件や日本の歴史と 関連付けながら理解し, その知識を身につけてい る。	世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史 と関連付けて考察し,その 過程や結果を適切に表現す ることができる。	世界の歴史に対する興味・関心を高め, 意欲的に課題に取り組み追及している。
価	А	わかる	世界の歴史について,地 理的条件や日本の歴史と 関連付けながら理解して いる。	自ら問題意識を持ち、問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し、情報を読み取り整理してまとめることができる。	わからないことを調べ, 他と協働しながら課題を 解決することができる。
基	В	できる	世界の歴史についての基 本的なを流れを理解し, その知識を身につけてい る。	問題意識を持ち,問題解 決の見通しを立て,必要 な情報を収集し情報を読 み取ることができる。	わからないところを自ら 人に聞いたり,他の者が 困っているときに一緒に 考察することができる。
準	С	する	世界の歴史についての基 本的な事柄を理解してい る。	時代の変化を学ぶことで,今を生きる自分が過去の歴史とつながっていることを知る。	授業を受けるための準備 ができている。(教材の準 備・服装・身の回りの整 理整頓など)
評価方法		法	授業・定期考査・小テスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習	内	容
	\1. \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\			
	前近代の諸文	明		
1 学	アジア・アフリ	Jカ・ヨーロ	リッパ・南北	アメリカの文明
子 期	一体化に向か	う世界		
	繁栄するアジア	・大航海時		
	欧米の工業化	とアジア記	諸国の動揺	LIN I
2		メリカの諸革1	命・アジア諸	国の動揺・東アジ
学期	アの大変動 現代社会の芽	生えと世月	界大戦	
捌	第一次世界大單			界大戦
			, ,,, _,,,	217 - 21
	冷戦から地球	社会へ		
3 学	冷戦・冷戦の約	冬結・地球を	上会への歩み	
字 期				
791				

何で学ぶか(教材)

帝国書院『明解 世界史A』 帝国書院『明解 世界史Aノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習・グループ学習

科目名		授業時数	週	2	単位	2	学年
科目名	14 月	コース・学年	研志		コース	文系・	芸術系大学進学

各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	実践の中で技術や戦術,正 しい知識を用いて,楽しく 安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で 状況を適切に判断し, プレー をしたり指示を出すことが できる。	問題解決の過程を振り返り、 考察し,自ら評価・改善しよ うとすることができる。
価	A		戦術や技術を適切な場面で 生かし,集団・チームの仲間 と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し,より大きな力を発揮するために,集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに,自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い,共に考察することができる。
基	В		基礎練習を正しくおこない, 競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技 術を理解し,またその競技の ルール等を熟知している。	できないことに挑戦し,他と 協働しながら問題解決へ向 かおうとすることができ る。
準	С	する	基本的な身体機能を理解し, 基礎体力を身に付けてい る。	健康健全な身体を求め,機能解剖やトレーニング方法,また食育,栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備が できている。(教材準備・服 装・身のまわりの整理整頓 など)
評	評価方法		授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習	内	容
1 学 期	体つくり運動 体力テスト 陸上競技			
2 学 期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボー	ール		
3 学 期	バドミントン ダンス			

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』 大修館書店『最新高等保健体育ノート』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習 実戦練習(ゲーム) チーム練習・戦略会議 iPadによる分析

 科目名
 保健
 授業時数
 週 1 単位
 2 学年

 コース
 研志
 コース
 コース

| 生涯の各段階において健康についての課題があること及び我が国の健康・医療制度や機関を適切に活用すること、社会生活における健康の保持増進には環境や食品、労働などが深くかかわっていることを理解する。また、自らの行動を振り返り、自身の現状を適切に把握する力を身に付ける。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評信	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	え	社会生活における健康の保 持増進に関わる事情から課 題を発見し、自らの健康を 管理することおよび環境を 改善することができる。	日常生活での健康に関する 知識の活用方法を適切に判 断することができる。	健康を保持増進するために は何が必要か考え,実行す ることができる。
価	A	わかる	各段階における健康の課題 や我が国の健康・医療制度 や機関の適切な活用の仕方 がわかる。	自身の現状を適切に把握 し、用途に応じて、適切な 施設や制度の選択ができ る。	様々な健康問題について関 心を持ち,自他の健康につ いて考えることができる。
基	В	できる	健康の保持増進には、個人 的要素だけでなく、社会的 要素が深くかかわっている ことを理解できる。	適切な用語・記号を使い, 分かりやすく解説を書くこ とができる。	わからないところを自ら人 に聞いたり,他者が困って いるときに一緒に考察する ことができる。
準	С		保健に関する重要語句が理 解できる。	語句の意味を理解し, 用語 や記号を適切に用いること ができる。	授業を受けるための準備が できている(教材の準備・ 服装・身の回りの整理整頓 など)。
評価方法		法	授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	C 1 6 4 (1 H) 1 H)
	学習內容
1 学 期	思春期と健康,性への関心・欲求と性行動 妊娠・出産と健康,避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康
2 学 期	中高年期と健康, 医薬品とその活用 医療サービスとその活用 保健サービスとその活用 さまざまな保健活動や対策
3 学 期	大気汚染と健康,水質汚濁・土壌汚染と健康 環境汚染を防ぐ取り組み ごみの処理と上下水道の整備,食品の安全を守る活動 働くことと健康,働く人の健康づくり

何で学ぶか(教材)

大修館書店

『最新高等 保健体育[改訂版]』 大修館書店

『最新高等 保健体育ノート[改訂版]』 プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

グループ学習

科目名 総合的な探究の時間 授業時数

週 1 単位

2 学年

、វ木九〇八号间 コース・学年 研志 コース

目 探究の見方,考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通し自己理解、他者 理解を深め、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評価	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態 度
評	S	使える	授業や外部講師の講演から 得られた知識をもとに、自 ら関連することを調べ、活 用するとともに、探究の意 義や価値を実社会や自己と 関連付けて理解している。	異なる意見・価値観を持つ人と理解 し合うことの重要性を想像できる。 また,自ら独創的な課題や仮説を立 て,情報収集,整理・分析する方法 を工夫し,他のことに関連付けつ つ,まとめ・表現することができ る。	学習内容を自分事として捉え,常に自分自身,相手,社会など異なる3つ以上の立場に立ちながら,他者と協働して課題を解決することができる。
価	A	カュ	授業や外部講師の講演から 得られた知識を活用すると ともに,実社会や自己と関 連付けて,探究の意義や価 値を理解している。	異なる意見・価値観を持つ人と 理解し合うことの重要性を想像 できる。また、自ら課題や仮説 を立て、情報収集、整理・分析 する方法を工夫し、まとめ・表 現することができる。	学習内容を自分事として捉え,自分自身と相手など複数の異なる立場に立ちながら,他者と協働して課題を解決することができる。
基	В	できる	授業や外部講師の講演から得られた知識を活用し,探究の意義や価値をおおむね理解している。	自ら課題や仮説を立て, 情報を集め,整理・分析 し,まとめ・表現するこ とができる。	学習内容を自分事として 捉え,他者と協働して課 題を解決することができ る。
準	С		授業や外部講師の講演の 内容をおおむね理解して いる。	与えられた課題に対して,情報を集め,整理・ 分析し,まとめ・表現することができる。	他者と協働して課題を解 決しようとする姿勢があ る。
評価方法		法	レポート・プロトタイ プ・プレゼン内容などの 成果物	レポート・プロトタイ プ・プレゼン内容などの 成果物, グループ活動	レポート・プロトタイ プ・プレゼン内容などの 成果物, グループ活動

いつ,何を学ぶか(学習内容)

	学	習旨	内	容
1 学 期	チームビルデ	イング		
2 学 期	国際社会問題 (児童労働な		理解を深め	かよう
3 学 期	社会問題を解	決するた	めの行動を	さ起こそう

何で学ぶか(教材)

Free The Children Japan 提供教材

どのように学ぶか(授業方法など)

- グループ活動
- オンライン講演会
- 講師招聘

科目名	地域探求	授業時数	週2単位	2学年
竹日泊	地域探求	コース・学年	研志 コース	大学進学

起業家教育を通して、地域の課題にどのようにアプローチしていくかを学ぶ。具体的には、課題の見つけ方、解決方法、周りの協力をどのように得るか、お金の流れなどを学ぶことで、より には、これには、記載の見つけ方、解決方法、周りの協力をといる。 には、記載の見つけ方、解決方法、周りの協力をといる。 には、記載の見つけ方、解決方法、周りの協力をといる。

どのような力を、どのレベルまで身に付けるか

評句	評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む 態度
	S	え	外部講師やインターネットを通じて学んだ知識をもとに、求められた以上の工夫を加えて課題を解決できる。	プロジェクトを解決する にあたり,自分たちの意 見を客観視しながら,修 正を重ねて仕上げること ができる。	学習内容をもとに主体的に次の課題を設定し,他 者の意見を取り入れつ つ,次の行動を起こすこ とができる。
評価	А	カュ	外部講師やインターネットを通じて学んだ知識を もとに,求められる水準 で課題の解決をすること ができる。	プロジェクト解決にあたり,他者の意見を取り入れつつも自分の意見を主張でき,まとめ上げることができる。	学習内容に対して主体的 に取り組み,与えられた 課題を自らの力で解決す ることができる。
基準	В	き	外部講師やインターネットから学んだ知識をもとに,他者と協力しながら課題をやり遂げることができる。	プロジェクトを解決する にあたり,他者の意見を 適切に聞き,まとめなが ら進めることができる。	学習内容に対して熱心に 取り組み,与えられた課 題を人の力も借りながら 解決することができる。
	С		外部講師やインターネットを通じて学んだ知識を もとに,難しい課題へも 取り組もうとする。	プロジェクトを解決する にあたり,他者と協働し ながら取り組みを進める ことができる。	学習内容に取り組み, 与えられた課題を解決しようとする姿勢がある。
評価方法		:法	レポート, 話し合い資 料, プレゼン内容などの 成果物	レポート, 話し合い資料, プレゼン内容などの成果物, グループ活動	レポート, 話し合い資料, プレゼン内容などの成果物, グループ活動

いつ, 何を学ぶか(学習内容)

	学習内容
1 学	(4月5月) ビジネスの基礎(インプット), チームビルディング
期	(6月7月)ヒヤリング,大枠の決定
2 学	(8月9月10月) ビジネスモデル
期	(11月12月) 中間発表へ向けて
3	(1月) 中間発表を受けて
学	(2月3月) 最終プレゼン準備
期	最終プレゼン

何で学ぶか(教材)

- 中小企業庁資料
- オリジナル教材

どのように学ぶか(授業方法など)

- チームごとでの活動
- ・市場調査, インターネット 電話, コーチング など